
2016年度

シラバス

フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

独：ドイツ語学科

養(*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科

英：英語学科

養(*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科

仏：フランス語学科

養(*3)：国際教養学部、韓国語履修者

環：国際環境経済学科

交：交流文化学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

免：2013年度以降入学の教職課程登録者

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	④	授業計画
③	春学期	
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	④	授業計画
③	秋学期	
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

— 総 合 目 次 —

2009 年度以降入学者用目次

-----2

外国語学部共通科目（2006 年度以降入学者用）

-----6

担当者別授業内容

-----7

フランス語学科 授業科目(2009年度以降入学者用 目次)

学科基礎科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	7
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	7
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ	PH. ヴァネ	春	1	1	全	8
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ	PH. ヴァネ	秋	1	1	全	8
フランス語Ⅰ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	9
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	9
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ	山崎 夏絵	春	1	1	全	10
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ	山崎 夏絵	秋	1	1	全	10
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅲ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	13
フランス語Ⅳ(文法)		秋	1	2	全	13
フランス語Ⅲ(講読)	富塚 真理子	春	1	2	全	14
フランス語Ⅳ(講読)	富塚 真理子	秋	1	2	全	14
フランス語Ⅲ(講読)	富田 正二	春	1	2	全	15
フランス語Ⅳ(講読)	富田 正二	秋	1	2	全	15
フランス語Ⅲ(講読)	藤田 朋久	春	1	2	全	16
フランス語Ⅳ(講読)	藤田 朋久	秋	1	2	全	16
フランス語Ⅲ(講読)	山崎 夏絵	春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(講読)	山崎 夏絵	秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(講読)	鈴木 隆	春	1	2	全	18
フランス語Ⅳ(講読)	鈴木 隆	秋	1	2	全	18
フランス語Ⅲ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	19
フランス語Ⅳ(総合)		秋	1	2	全	19
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	小石 悟	春	1	2	全	20
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	小石 悟	秋	1	2	全	20
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	21
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ		秋	1	2	全	21
フランス語Ⅲ(構文)	井上 美穂	春	1	2	全	22
フランス語Ⅳ(構文)	井上 美穂	秋	1	2	全	22
フランス語Ⅲ(構文)	青木 三郎	春	1	2	全	23
フランス語Ⅳ(構文)	青木 三郎	秋	1	2	全	23
フランス語Ⅲ(構文)	熊倉 良子	春	1	2	全	24
フランス語Ⅳ(構文)	熊倉 良子	秋	1	2	全	24
フランス語Ⅲ(構文)	小倉 博行	春	1	2	全	25
フランス語Ⅳ(構文)	小倉 博行	秋	1	2	全	25
フランス語Ⅲ(構文)	福田 美雪	春	1	2	全	26
フランス語Ⅳ(構文)	福田 美雪	秋	1	2	全	26

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	筒井 伸保	春	木1	2	1		27
フランス芸術文化入門Ⅱ	筒井 伸保	秋	木1	2	1		27
フランス現代社会入門Ⅰ	鈴木 隆	春	水3	2	1		28
フランス現代社会入門Ⅱ	鈴木 隆	秋	水3	2	1		28

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	29
総合フランス語Ⅱ		秋		2	3	全	29
フランス語文章表現法Ⅰ	PH. ヴァネ	春	月1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	月1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅰ	小石 悟	春	火3	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅱ	小石 悟	秋	火3	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅰ	筒井 伸保	春	水1	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅱ	筒井 伸保	秋	水1	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	水2	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	水2	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅰ	C. ラビニヤス	春	木2	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅱ	C. ラビニヤス	秋	木2	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅰ	C. ルメタ	春	金2	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅱ	C. ルメタ	秋	金2	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅰ	D. ベルテ	春	金3	2	3		36
フランス語文章表現法Ⅱ	D. ベルテ	秋	金3	2	3		36
フランス語会話Ⅰ	L. フォンテーヌ	春	月3	2	3		37
フランス語会話Ⅱ	L. フォンテーヌ	秋	月3	2	3		37
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3		38
フランス語会話Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木2	2	3		38
フランス語会話Ⅰ	F. X. レット	春	金2	2	3		39
フランス語会話Ⅱ	F. X. レット	秋	金2	2	3		39
フランス語会話Ⅰ	B. ピケ	春	金3	2	3		40
フランス語会話Ⅱ	B. ピケ	秋	金3	2	3		40
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジェス	春	月3	2	3		41
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジェス	秋	月3	2	3		41
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木1	2	3		42
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木1	2	3		42

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	水2	2	2		43
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	水2	2	2		43
フランス語文章理論Ⅰ	小石 悟	春	火4	2	2		44
フランス語文章理論Ⅱ	小石 悟	秋	火4	2	2		44
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	2		45
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	2		45
マスメディアのフランス語Ⅰ	野澤 丈二	春	木2	2	3		46
マスメディアのフランス語Ⅱ	野澤 丈二	秋	木2	2	3		46
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	青木 三郎	春	金5	2	3		47
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	青木 三郎	秋	金5	2	3		47
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		48
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		48
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田桐 正彦	春	火3	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田桐 正彦	秋	火3	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	水1	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	水1	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	水2	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	水2	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	小石 悟	春	木3	2	3		52
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	小石 悟	秋	木3	2	3		52

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	月4	2	2	交	53
フランスの美術Ⅱ	休講						
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木2	2	2	交	54
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木2	2	2	交	54
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		55
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		55
フランス文学史Ⅰ	湯浅 博雄	春	月4	2	2		56
フランス文学史Ⅱ	湯浅 博雄	秋	月4	2	2		56
フランスの文学Ⅰ【2012年度以前入学者】	休講						
フランス語圏の文学Ⅰ【2013年度以降入学者】	休講						
フランスの文学Ⅱ【2012年度以前入学者】	休講						
フランス語圏の文学Ⅱ【2013年度以降入学者】	休講						
フランス芸術文化各論Ⅰ	湯浅 博雄	春	水4	2	3		57
フランス芸術文化各論Ⅱ	湯浅 博雄	秋	水4	2	3		57
フランス芸術文化各論Ⅰ	福田 美雪	春	金2	2	3		58
フランス芸術文化各論Ⅱ	福田 美雪	秋	金2	2	3		58
フランス芸術文化講読Ⅰ	湯浅 博雄	春	月3	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅱ	湯浅 博雄	秋	月3	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	火3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	火3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	水2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	休講						
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	木3	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	木3	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅰ	福田 美雪	春	金4	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅱ	福田 美雪	秋	金4	2	3		64

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	鈴木 隆	春	火3	2	3		65
フランス地域論Ⅱ	鈴木 隆	秋	火3	2	3		65
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	2		66
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	2		66
フランスの政治経済Ⅰ	平田 周	春	月3	2	2	交	67
フランスの政治経済Ⅱ	平田 周	秋	月3	2	2	交	67
フランスの政治経済Ⅰ	休講						
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	水2	2	2	交	68
フランス現代思想Ⅰ	若森 栄樹	春	火2	2	3		69
フランス現代思想Ⅱ	若森 栄樹	秋	火2	2	3		69
現代フランス論Ⅰ【2012年度以前入学者】	平田 周	春	月2	2	2		70
フランス語圏の現代社会Ⅰ【2013年度以降入学者】	平田 周	秋	月2	2	2		70
現代フランス論Ⅱ【2012年度以前入学者】	平田 周	秋	月2	2	2		70
フランス語圏の現代社会Ⅱ【2013年度以降入学者】	平田 周	秋	月2	2	2		70
フランス現代社会各論Ⅰ	PH. ヴァネ	春	水1	2	3		71
フランス現代社会各論Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	水1	2	3		71
フランス現代社会各論Ⅱ	廣田 愛理	秋	月2	2	3		72
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	月4	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	月4	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅰ	鈴木 隆	春	水1	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅱ	鈴木 隆	秋	水1	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅰ	休講						
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	木2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅰ	湯浅 博雄	春	水2	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅱ	湯浅 博雄	秋	水2	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅰ	横地 卓哉	春	木1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	木1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅰ	若森 栄樹	春	金3	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅱ	若森 栄樹	秋	金3	2	3		78

交流文化論(09年度以降入学者)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	月2	2	2	交・養・経・法	79
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	80
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	81
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	82
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	83
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	84
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	85
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	86
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	87
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	火1	2	2	交・養・経・法	88
交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】	北野 収	秋	火2	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	94

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	阿部 明日香	春	水3	2	1	養・経・法	95
総合講座	廣田 愛理	秋	水3	2	1	養・経・法	95
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	96
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	96
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	97
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						98～100
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						101～104
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	
(HTML)情報科学各論	各担当教員						105～106
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	107
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	107
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	108
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	108

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

フランス語学科シラバス

08 年度以降	フランス語Ⅰ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		1. イントロダクション・音と綴り 2. 基本的な動詞の活用 3. 名詞・冠詞・形容詞 4. 疑問文 5. 否定文 6. 指示形容詞・所有形容詞・数形容詞 7. 直接法現在の活用 1 8. 直接法現在の活用 2 9. 直接法現在の活用 3 10. 命令法 11. 疑問詞 12. 近接未来と近接過去 13. 半過去 14. 複合過去 15. まとめ ＊クラスによって使用教材と進度が違うため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		1. 単純未来 2. 大過去・前未来 3. 代名詞 1 4. 関係代名詞 1 5. 強調構文・感嘆文 6. 比較構文 7. 能動態と受動態 8. 代名動詞 9. 非人称構文・不定詞構文 10. ジェロンディフ 11. 代名詞 2 12. 関係代名詞 2・関係副詞 13. 条件法 14. 接続法 15. まとめ ＊クラスによって使用教材と進度が違うため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語 I（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but du cours : apprendre à lire sans traduire. La méthode : lecture d’articles de journaux pour jeunes sur des sujets si possible variés touchant à la société française ou aux sociétés francophones. Une liste du vocabulaire est donnée avant la lecture en classe, ainsi qu’une liste de questions à préparer. En classe : lecture à haute voix, explication, du contexte et du texte en français, recherche ensemble, réponse aux questions.		1. Présentation du cours 2. 1^{er} article 3. 4. 5. 2^e article 6. 7. 8. Petit test de vocabulaire 9. 3^e article 10. 11. 12. 4^e article 13. 14. 2^e test de vocabulaire 15. Conclusions	
到達目標	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher les mots inconnus dans la liste du vocabulaire et préparer à l’avance les questions. Approfondissement du contexte, en consultant par exemple internet.		
テキスト、参考文献	Photocopies d’articles de journaux. Dictionnaire français-français, par exemple: <i>Larousse</i> de poche.		
評価方法	Deux tests de vocabulaire en cours, examen final sur la compréhension des textes étudiés, examen de lecture à haute voix.		

08 年度以降	フランス語Ⅱ（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	P.H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but du cours : apprendre à lire sans traduire. La méthode : lecture d'articles de journaux pour jeunes sur des sujets si possible variés touchant à la société française ou aux sociétés francophones. Une liste du vocabulaire est donnée avant la lecture en classe, ainsi qu'une liste de questions à préparer. En classe : lecture à haute voix, explication, du contexte et du texte en français, recherche ensemble, réponse aux questions. Au 2^e semestre, selon le niveau général des étudiants, on pourra essayer de lire des articles des grands journaux francophones.		1. Présentation du cours 2. 1^{er} article 3. 4. 5. 2^e article 6. 7. 8. Petit test de vocabulaire 9. 3^e article 10. 11. 12. 4^e article 13. 14. 2^e test de vocabulaire 15. Conclusions	
到達目標	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher les mots inconnus dans la liste du vocabulaire et préparer à l'avance les questions. Approfondissement du contexte, en consultant par exemple internet.		
テキスト、参考文献	Photocopies d'articles de journaux. Dictionnaire français-français, par exemple: <i>Larousse</i> de poche.		
評価方法	Deux tests de vocabulaire en cours, examen final sur la compréhension des textes étudiés, examen de lecture à haute voix.		

08 年度以降	フランス語Ⅰ（総合）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Totem 2</i> を使います。未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。既修クラスではネイティヴ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>Leçon 0</td><td>Dossier 1-Leçon 1</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 2</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 3</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 4</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 5</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 6</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 7</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 8</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 9</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 10</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 11</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision</td><td>Dossier 3-Leçon 12</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1.	Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1	2.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2	3.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3	4.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4	5.	Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5	7.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6	8.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7	9.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8	10.	Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9	12.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10	13.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11	14.	Révision	Dossier 3-Leçon 12	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																																	
1.	Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1																																																	
2.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2																																																	
3.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3																																																	
4.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4																																																	
5.	Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																																	
6.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5																																																	
7.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6																																																	
8.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7																																																	
9.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8																																																	
10.	Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																																	
11.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9																																																	
12.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10																																																	
13.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11																																																	
14.	Révision	Dossier 3-Leçon 12																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

08 年度以降	フランス語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Totem 2</i> を使います。未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 春学期の復習</td><td>Dossiers 4-Leçon 13</td></tr><tr><td>2. Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossiers 4-Leçon 14</td></tr><tr><td>3. Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossiers 4-Leçon 15</td></tr><tr><td>4. Unité 3-Leçon 9~10</td><td>Dossiers 4-Leçon 16</td></tr><tr><td>5. Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6. Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossiers 5-Leçon 17</td></tr><tr><td>7. Unité 3-Leçon 11~12</td><td>Dossiers 5-Leçon 18</td></tr><tr><td>8. Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossiers 5-Leçon 19</td></tr><tr><td>9. Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Dossiers 5-Leçon 20</td></tr><tr><td>10. Unité 4-Leçon 13~14</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11. Unité 4-Leçon 15~16</td><td>Dossiers 6-Leçon 21</td></tr><tr><td>12. Unité 4-Leçon 15~16</td><td>Dossiers 6-Leçon 22</td></tr><tr><td>13. Unité 4-Leçon 15~16</td><td>Dossiers 6-Leçon 23</td></tr><tr><td>14. Révision</td><td>Dossiers 6-Leçon 24</td></tr><tr><td>15. Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13	2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14	3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15	4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 16	5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision	6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17	7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18	8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19	9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20	10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision	11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21	12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22	13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23	14. Révision	Dossiers 6-Leçon 24	15. Révision	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13																																		
2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14																																		
3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15																																		
4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 16																																		
5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision																																		
6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17																																		
7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18																																		
8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19																																		
9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20																																		
10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision																																		
11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21																																		
12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22																																		
13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23																																		
14. Révision	Dossiers 6-Leçon 24																																		
15. Révision	Révision																																		
到達目標	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

08 年度以降	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標 1.各回のテーマに関連した語彙の習得 2.自然な会話のスピードに慣れる 授業の概要 各テーマについてそれぞれ 3 種類の会話文の聞き取り練習を行います。クラス全体での学習の後、個人学習の時間を設けます。音声教材は持ち帰ることができますので、USBメモリーを持参して下さい。		1. ガイダンス 2. organiser sa journée(1) 3. organiser sa journée(2) 4. faire des choix(1) 5. faire des choix(2) 6. garder la forme(1) 7. garder la forme(2) 8. 3つのテーマについてまとめと小テスト 9. louer un appartement(1) 10. louer un appartement(2) 11. déménager(1) 12. déménager(2) 13. s'installer(1) 14. s'installer(2) 15. 3つのテーマについてまとめと小テスト	
到達目標	PC 等を使った学習により、フランス語の基礎、および、フランスに関する情報に自らアクセスする方法の基礎を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回会話文のスクリプトを配布します。自宅で語彙の学習、書き取りの練習を行ってください。		
テキスト、参考文献	プリントを使用		
評価方法	中間試験と学期末試験		

08 年度以降	フランス語Ⅱ（TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目標 1.各回のテーマに関連した語彙の習得 2.ヒアリング能力の向上 授業の概要 各テーマについてそれぞれ3種類の会話文の聞き取り練習を行います。クラス全体での学習の後、個人学習の時間を設けます。音声教材は持ち帰ることができますので、USBメモリーを持参して下さい。		1. ガイダンス 2. partager un repas(1) 3. partager un repas(2) 4. faire les courses(1) 5. faire les courses(2) 6. faire les magasins(1) 7. faire les magasins(2) 8. 3つのテーマについてまとめと小テスト 9. découvrir la ville(1) 10. découvrir la ville(2) 11. voyager(1) 12. voyager(2) 13. aller en vacances(1) 14. aller en vacances(2) 15. 3つのテーマについてまとめと小テスト	
到達目標	PC等を使った学習により、フランス語の基礎、および、フランスに関する情報に自らアクセスする方法の基礎を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回会話文のスクリプトを配布します。自宅で語彙の学習、書き取りの練習を行ってください。		
テキスト、参考文献	プリントを使用		
評価方法	中間試験と学期末試験		

08 年度以降	フランス語Ⅰ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じ<i>Amical 1</i>を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> 1. Leçon 0 2. Unité 1-Leçon 1~2 3. Unité 1-Leçon 1~2 4. Unité 1-Leçon 1~2 5. Unité 1-Leçon 3~4 6. Unité 1-Leçon 3~4 7. Unité 1-Leçon 3~4 8. Unité 2-Leçon 5~6 9. Unité 2-Leçon 5~6 10. Unité 2-Leçon 5~6 11. Unité 2-Leçon 7~8 12. Unité 2-Leçon 7~8 13. Unité 2-Leçon 7~8 14. Révision 15. Révision ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	<i>Amical 1</i>		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語Ⅱ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じ <i>Amical 1</i> を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> 1. 春学期の復習 2. Unité 3-Leçon 9~10 3. Unité 3-Leçon 9~10 4. Unité 3-Leçon 9~10 5. Unité 3-Leçon 11~12 6. Unité 3-Leçon 11~12 7. Unité 3-Leçon 11~12 8. Unité 4-Leçon 13~14 9. Unité 4-Leçon 13~14 10. Unité 4-Leçon 13~14 11. Unité 4-Leçon 15~16 12. Unité 4-Leçon 15~16 13. Unité 4-Leçon 15~16 14. Révision 15. Révision ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	<i>Amical 1</i>		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語 I （LL）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書Amical 1、既修クラスでは「総合」と同じTotem 2を使用します。どちらのクラスも通常この授業はCAL教室で行います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>Leçon 0</td><td>Dossier 1-Leçon 1</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 2</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 3</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 1-Leçon 4</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 5</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 1-Leçon 3~4</td><td>Dossier 2-Leçon 6</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 7</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Dossier 2-Leçon 8</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 2-Leçon 5~6</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 9</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 10</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 2-Leçon 7~8</td><td>Dossier 3-Leçon 11</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision</td><td>Dossier 3-Leçon 12</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1.	Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1	2.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2	3.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3	4.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4	5.	Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5	7.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6	8.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7	9.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8	10.	Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9	12.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10	13.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11	14.	Révision	Dossier 3-Leçon 12	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																																	
1.	Leçon 0	Dossier 1-Leçon 1																																																	
2.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 2																																																	
3.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 3																																																	
4.	Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 1-Leçon 4																																																	
5.	Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																																	
6.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 5																																																	
7.	Unité 1-Leçon 3~4	Dossier 2-Leçon 6																																																	
8.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 7																																																	
9.	Unité 2-Leçon 5~6	Dossier 2-Leçon 8																																																	
10.	Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																																	
11.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 9																																																	
12.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 10																																																	
13.	Unité 2-Leçon 7~8	Dossier 3-Leçon 11																																																	
14.	Révision	Dossier 3-Leçon 12																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

08 年度以降	フランス語Ⅱ（LL）	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> 、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Totem 2</i> を使用します。どちらのクラスも通常この授業は CAL 教室で行います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>春学期の復習</td><td>Dossier 4・Leçon 13</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossier 4・Leçon 14</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossier 4・Leçon 15</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 3・Leçon 9~10</td><td>Dossier 4・Leçon 16</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Dossier 5・Leçon 17</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 3・Leçon 11~12</td><td>Dossier 5・Leçon 18</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Dossier 5・Leçon 19</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Dossier 5・Leçon 20</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 4・Leçon 13~14</td><td>Révision</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossier 6・Leçon 21</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossier 6・Leçon 22</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 4・Leçon 15~16</td><td>Dossier 6・Leçon 23</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision</td><td>Dossier 6・Leçon 24</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1.	春学期の復習	Dossier 4・Leçon 13	2.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 14	3.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 15	4.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 16	5.	Unité 3・Leçon 11~12	Révision	6.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 17	7.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 18	8.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 19	9.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 20	10.	Unité 4・Leçon 13~14	Révision	11.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 21	12.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 22	13.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 23	14.	Révision	Dossier 6・Leçon 24	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																																	
1.	春学期の復習	Dossier 4・Leçon 13																																																	
2.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 14																																																	
3.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 15																																																	
4.	Unité 3・Leçon 9~10	Dossier 4・Leçon 16																																																	
5.	Unité 3・Leçon 11~12	Révision																																																	
6.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 17																																																	
7.	Unité 3・Leçon 11~12	Dossier 5・Leçon 18																																																	
8.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 19																																																	
9.	Unité 4・Leçon 13~14	Dossier 5・Leçon 20																																																	
10.	Unité 4・Leçon 13~14	Révision																																																	
11.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 21																																																	
12.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 22																																																	
13.	Unité 4・Leçon 15~16	Dossier 6・Leçon 23																																																	
14.	Révision	Dossier 6・Leçon 24																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。 授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。		1. 名詞の性と数 2. 形容詞のはたらき 3. 冠詞の使い方 4. 指示形容詞と所有形容詞 5. 疑問形容詞 6. 不定形容詞 7. 分量を表す表現 8. 人称代名詞 9. 再帰代名詞・代名動詞 10. 中性代名詞 11. 指示代名詞 12. 不定代名詞 13. 関係代名詞 14. 否定の表現 15. 直接話法と間接話法 ＊クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の中級文法を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。 授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。		1. 動詞の法と時制 2. 直接法現在・複合過去・半過去・大過去（1） 3. 直接法現在・複合過去・半過去・大過去（2） 4. 直接法単純過去・前過去・重複過去 5. 北摂法単純未来・前未来 6. 条件法現在 7. 条件法過去 8. 接続法現在 9. 接続法過去 10. 接続法半過去・大過去 11. 命令法 12. 不定法 13. 現在分詞・ジェロンディフ 14. 過去分詞 15. まとめ ＊クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の中級文法を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	担当教員から指示があります。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、指定の教科書に沿い、フランスの地理・歴史・政治・教育、またフランスの経済・文芸・社会・生活、世界の中のフランス、という数多のテーマを広く扱います。長く日本に在住するフランス人の書き手による教科書ですので、年間を通して学習すれば「フランス人が日本人に知ってもらいたいフランス」を知ることができます。また、語彙や表現を含め、フランス人とコミュニケーションする場合の基礎知識を得ることにあります。 毎回の授業では、実際のテキストに入る前に、背景となる事情を説明します。その後、朗読作業（CD 役と称します）に移ります。その課題が済んで、全員を対象とする輪読形式で進めますので、毎回予習の上臨んでください。		1. オリエンテーション、発音と朗読のテクニック 2. Géographie et population 3. La suite : Géographie et population 4. L'Histoire de France (1) 5. La suite : L'Histoire de France (1) 6. L'Histoire de France (2) 7. La suite : L'Histoire de France (2) 8. 中間試験、諸事検討 9. La suite (2) : L'Histoire de France (2) 10. Le Système politique français 11. La suite : Le Système politique français 12. Le Système d'enseignement en France 13. La suite : Le Système d'enseignement en France 14. La prononciation 15. 期末試験、諸事検討	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の指定箇所を事前に読むこと。毎回の小テストに備えること。		
テキスト、参考文献	ドラ・トーザン著『La France, vous connaissez ? 現代フランスの基礎知識』（白水社 2013）		
評価方法	毎回実施の小テスト（10%）、中間試験・期末試験（70%）、CD 役課題（20%）による。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、指定の教科書に沿い、フランスの地理・歴史・政治・教育、またフランスの経済・文芸・社会・生活、世界の中のフランス、という数多のテーマを広く扱います。長く日本に在住するフランス人の書き手による教科書ですので、年間を通して学習すれば「フランス人が日本人に知ってもらいたいフランス」を知ることができます。また、語彙や表現を含め、フランス人とコミュニケーションする場合の基礎知識を得ることもなります。 毎回の授業では、実際のテキストに入る前に、背景となる事情を説明します。その後、朗読作業（CD 役と称します）に移ります。その課題が済んで、全員を対象とする輪読形式で進めますので、毎回予習の上臨んでください。		1. L'Économie française 2. La suite : L'Économie française 3. La suite (2) : L'Économie française 4. Beaux-Arts et littérature 5. La suite : Beaux-Arts et littérature 6. La suite (2) : Beaux-Arts et littérature 7. 中間試験、諸事検討 8. La société française 9. La suite : La société française 10. La suite (2) : La société française 11. Le Mode de vie des Français 12. La suite : Le Mode de vie des Français 13. La Place de la France dans le monde 14. La Place de la France dans le monde 15. 期末試験、諸事検討	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の指定箇所を事前に読むこと。毎回の小テストに備えること。		
テキスト、参考文献	ドラ・トーザン著『La France, vous connaissez ? 現代フランスの基礎知識』（白水社 2013）		
評価方法	毎回実施の小テスト、中間試験・期末試験、CD 役課題を中心に。		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	富田 正二
講義目的、講義概要		授業計画	
小説家ル・クレジオ（1940年、ニース生）の短編小説 <i>Peuple du ciel</i> を読みます。これは小説というより童話に近い作品です。語彙数もさほど多くないので、その意味では読みやすい作品です。新聞や雑誌など実用文に接する一方で、文学作品を読むこともいい経験になると思います。和訳することは容易でも内容が理解できないということもあります。ことばや文のコノタシオンについて考えることで、フランス語を平面的ではなく、多層的な観点から見直す機会になるかもしれません。 内容は盲目の少女が自然と交感する話です。少女は視覚以外の感覚を駆使して、風や光やさまざまな動物たちを感じようとします。少女は、私たちが大人になる過程で摩耗してしまった感覚を思いださせてくれるかもしれません。		1 作者と作品の紹介 2 盲目の少女、プティット・クロワ 3 砂と埃の国 4 「あお（青）ってなあに？」 5 風との対話 6 光との対話 7 バーティー爺さんの馬たち 8 雲との対話 9 蜜蜂との対話 10 冷たい風と兵士 11 走り去る動物たち 12 岬で 13 蛇との出会い 14 外国人兵士との出会い 15 講義のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業は演習形式でおこないますので、とくに予習を欠かさないようにしてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Le Clézio：「 <i>Peuple du ciel</i> 」のプリント 参考文献：豊崎・佐藤訳『海を見たことがなかった少年』、集英社文庫、1995 年		
評価方法	学期末試験（60％）を中軸にして、日常の授業にとりくむ態度（40％）を考慮して判定します。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	富田 正二
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に続いて <i>Peuple du ciel</i> を読みます。小説のモチーフや文体の特徴にも慣れてきたのではないのでしょうか。フランス語を日本語におきかえるだけではなく、ことばがもっている広がりをよく味わいながら読み進めましょう。理解できない文章に出会ったら立ち止まってゆっくり考えましょう。読解をとおして、自分自身や各自が置かれている生活環境、さらには現代社会などを見直すきっかけになればと思います。 授業は演習形式でおこないます。		1 太陽について 2 目に見えるものと目に見えないもの 3 動かない山について 4 空の青さについて 5 光を感じる 6 海の青さについて 7 空を飛ぶこと 8 兵士との別れ 9 日没の時刻 10 雲を感じる 11 海を感じる 12 サカゾフーとの出会い 13 サカゾフーとの戦い 14 サカゾフーの正体 15 講義のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業は演習形式でおこないますので、とくに予習を欠かさないようにしてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Le Clézio：「 <i>Peuple du ciel</i> 」のプリント 参考文献：豊崎・佐藤訳『海を見たことがなかった少年』、集英社文庫、1995 年		
評価方法	学期末試験（60％）を中軸にして、日常の授業にとりくむ態度（40％）を考慮して判定します。		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
初級文法の知識をもとに、フランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的とする授業です。 下記の教科書を使って、現代フランス社会の様々なトピックスを取り上げます。		1. 授業ガイダンス 2. Pierre de Coubertin 3. Les entreprises françaises au Japon 4. Aldebaran Robotics 5. まとめ 6. Les accorderies 7. La force de dissuasion française 8. La Journée défense et citoyenneté 9. まとめ 10. Le Territoire de Belfort 11. La Lutetia, hôtel légendaire 12. La Tour de l'Horloge du palais de la Cité 13. L'égalité des chances 14. まとめ 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を使ってテキストを下読みして授業に臨んでください。その他、課題の提出などについては、最初の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	加藤晴久／ミシェル・サガス『時事フランス語 2016 年度版』朝日出版社		
評価方法	平常点（20％）と、期末試験の成績（80％）を総合して評価します。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
初級文法の知識をもとに、フランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的とする授業です。 下記の教科書を使って、現代フランス社会の様々なトピックスを取り上げます。		1. 授業ガイダンス 2. Les mathématiques françaises 3. Les bobos 4. Yves Saint Laurent 5. まとめ 6. Les chanteurs dans le métro parisien 7. Le restaurant 8. Les prénoms 9. まとめ 10. Les Journées mondiales de la jeunesse 11. Traverser la Manche à la nage 12. Genève et Lausanne 13. Kumamon 14. まとめ 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を使ってテキストを下読みして授業に臨んでください。その他、課題の提出などについては、最初の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	加藤晴久／ミシェル・サガス『時事フランス語 2016 年度版』朝日出版社		
評価方法	平常点（20％）と、期末試験の成績（80％）を総合して評価します。		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
初級文法で学んだ知識を使って、フランス語で書かれたテキストを読むことと、現代フランス社会、文化についての知識を深めることを目的とします。毎回全員にテキストを音読してもらい評価しますので、必ず予習の上、授業に出席してください。 詳しい授業の進め方については初回のガイダンスで説明しますので、必ず出席してください。		1. ガイダンス 2. ピエール・ド・クーベルタン 3. フランス企業 日本に定着 4. アルデバラン・ロボティクス 5. アコルドリ 6. フランスの核抑止力 7. 国防の日 8. ベルフォール 9. 伝説のホテル ル・ルテチア 10. シテ島王宮の時計塔 11. 機会均等 12. 数学王国 フランス 13. ボボ 14. イヴ・サン＝ローラン 15. 春学期のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された範囲のテキストを訳し音読練習をしておいてください。また定期的に単語テストを行いますので、毎回必ず復習をしておいてください。		
テキスト、参考文献	『時事フランス語（2016 年度版）』 朝日出版社		
評価方法	平常点（授業中の訳と音読）25％，単語テスト 25％，期末テスト 50％		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		1. ガイダンス 2. メトロの歌手たち 3. レストラン 4. ファーストネーム 5. 世界青年の日 6. 英仏海峡横断 7. ジュネーヴとローザンヌ 8. くまモン 9. フランスの大学 10. グランゼコールとその他の専門職教育 11. 雇用と失業 12. 社会における女性と男性 13. フランス人のマナー 14. 会話のスタイル 15. 秋学期のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された範囲のテキストを訳し音読練習をしておいてください。また定期的に単語テストを行いますので、毎回必ず復習をしておいてください。		
テキスト、参考文献	『時事フランス語（2016 年度版）』 朝日出版社、コピー教材		
評価方法	平常点（授業中の訳と音読）25％，単語テスト 25％，期末テスト 50％		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスについて書かれたフランス語の文章を読んで、フランス語の基礎学力の向上を図ると同時に、フランスに関する知識を習得してフランス語の使用能力を高める。 フランスの世界遺産について簡潔に書かれたテキストを取り上げ、文章表現および内容に関する解説を行いながらそれを読み進めてゆく。学生は予め自分の力でテキスト読んで理解に努め、その後、教員が解説を行いながら再度読み直す形で講義を進める。		1. フランスの世界遺産 2. パリのセーヌ河岸(1) 3. パリのセーヌ河岸(2) 4. パリのセーヌ河岸(3) 5. パリのセーヌ河岸(4) 6. モン・サン・ミシェルとその湾(1) 7. モン・サン・ミシェルとその湾(2) 8. モン・サン・ミシェルとその湾(3) 9. ヴェルサイユの宮殿と庭園(1) 10. ヴェルサイユの宮殿と庭園(2) 11. ヴェルサイユの宮殿と庭園(3) 12. シャルトル大聖堂(1) 13. シャルトル大聖堂(2) 14. シャルトル大聖堂(3) 15. シャルトル大聖堂(4) 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを読んで、自分の力で内容を理解することに努める。事後には、講義で学んだテキストの文章表現および内容を確実に修得する努力をすること。		
テキスト、参考文献	講義の中で講読資料を配布する。		
評価方法	授業内の発表（30%）およびテスト（70%）によって評価する。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスについて書かれたフランス語の文章を読んで、フランス語の基礎学力の向上を図ると同時に、フランスに関する知識を習得してフランス語の使用能力を高める。 フランスの世界遺産について簡潔に書かれたテキストを取り上げ、文章表現および内容に関する解説を行いながらそれを読み進めてゆく。学生は予め自分の力でテキスト読んで理解に努め、その後、教員が解説を行いながら再度読み直す形で講義を進める。		1. リヨン歴史地区(1) 2. リヨン歴史地区(2) 3. リヨン歴史地区(3) 4. リヨン歴史地区(4) 5. ポン・デュ・ガール(1) 6. ポン・デュ・ガール(2) 7. ポン・デュ・ガール(3) 8. フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路(1) 9. フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路(2) 10. フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路(3) 11. フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路(4) 12. ミディ運河(1) 13. ミディ運河(2) 14. ミディ運河(3) 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを読んで、自分の力で内容を理解することに努める。事後には、講義で学んだテキストの文章表現および内容を確実に修得する努力をすること。		
テキスト、参考文献	講義の中で講読資料を配布する。		
評価方法	授業内の発表（30%）およびテスト（70%）によって評価する。		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に伸ばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書<i>Amical 1</i>、既修クラスでは<i>Totem 3</i> を使います。 未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><tr><td><i>Amical 1</i></td><td><i>Totem 2, 3</i></td></tr><tr><td>1. Unité 5-Leçon 17</td><td><i>Totem 2</i>, Dossier 7- Leçon 25, 26</td></tr><tr><td>2. Unité 5-Leçon 17~18</td><td>Dossier 7-Leçon 27, 28</td></tr><tr><td>3. Unité 5-Leçon 18</td><td>Dossier 8-Leçon 29, 30</td></tr><tr><td>4. Unité 5-Leçon 19</td><td>Dossier 8-Leçon 31, 32</td></tr><tr><td>5. Unité 5-Leçon 19</td><td>Révision</td></tr><tr><td>6. Unité 5-Leçon 20</td><td><i>Totem 3</i>, Dossier 1-Leçon 1</td></tr><tr><td>7. Unité 5-Leçon 20</td><td>Dossier 1-Leçon 2</td></tr><tr><td>8. Unité 6-Leçon 21</td><td>Dossier 1-Leçon 3</td></tr><tr><td>9. Unité 6-Leçon 21</td><td>Dossier 1-Leçon 4</td></tr><tr><td>10. Unité 6-Leçon 22</td><td>Dossier 1-Leçon 5</td></tr><tr><td>11. Unité 6-Leçon 22</td><td>Révision</td></tr><tr><td>12. Unité 6-Leçon 23</td><td>Dossier 2-Leçon 6</td></tr><tr><td>13. Unité 6-Leçon 23</td><td>Dossier 2-Leçon 7</td></tr><tr><td>14. Unité 6-Leçon 24</td><td>Dossier 2-Leçon 8</td></tr><tr><td>15. Unité 6-Leçon 24</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2, 3</i>	1. Unité 5-Leçon 17	<i>Totem 2</i> , Dossier 7- Leçon 25, 26	2. Unité 5-Leçon 17~18	Dossier 7-Leçon 27, 28	3. Unité 5-Leçon 18	Dossier 8-Leçon 29, 30	4. Unité 5-Leçon 19	Dossier 8-Leçon 31, 32	5. Unité 5-Leçon 19	Révision	6. Unité 5-Leçon 20	<i>Totem 3</i> , Dossier 1-Leçon 1	7. Unité 5-Leçon 20	Dossier 1-Leçon 2	8. Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 3	9. Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 4	10. Unité 6-Leçon 22	Dossier 1-Leçon 5	11. Unité 6-Leçon 22	Révision	12. Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 6	13. Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 7	14. Unité 6-Leçon 24	Dossier 2-Leçon 8	15. Unité 6-Leçon 24	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2, 3</i>																																		
1. Unité 5-Leçon 17	<i>Totem 2</i> , Dossier 7- Leçon 25, 26																																		
2. Unité 5-Leçon 17~18	Dossier 7-Leçon 27, 28																																		
3. Unité 5-Leçon 18	Dossier 8-Leçon 29, 30																																		
4. Unité 5-Leçon 19	Dossier 8-Leçon 31, 32																																		
5. Unité 5-Leçon 19	Révision																																		
6. Unité 5-Leçon 20	<i>Totem 3</i> , Dossier 1-Leçon 1																																		
7. Unité 5-Leçon 20	Dossier 1-Leçon 2																																		
8. Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 3																																		
9. Unité 6-Leçon 21	Dossier 1-Leçon 4																																		
10. Unité 6-Leçon 22	Dossier 1-Leçon 5																																		
11. Unité 6-Leçon 22	Révision																																		
12. Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 6																																		
13. Unité 6-Leçon 23	Dossier 2-Leçon 7																																		
14. Unité 6-Leçon 24	Dossier 2-Leçon 8																																		
15. Unité 6-Leçon 24	Révision																																		
到達目標	フランス語の一般的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2, 3</i>																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
この授業はフランス語の実力を総合的に伸ばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Amical 2</i>、既修クラスでは <i>Totem 3</i> を使います。 未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><tr><td><i>Amical 2</i></td><td><i>Totem 3</i></td></tr><tr><td>1. Unité 1-Leçon 1</td><td>Dossier 2-Leçon 9</td></tr><tr><td>2. Unité 1-Leçon 1~2</td><td>Dossier 2-Leçon 10</td></tr><tr><td>3. Unité 1-Leçon 2</td><td>Dossier 3-Leçon 11</td></tr><tr><td>4. Unité 1-Leçon 3</td><td>Dossier 3-Leçon 12</td></tr><tr><td>5. Unité 1-Leçon 3</td><td>Dossier 3-Leçon 13</td></tr><tr><td>6. Unité 1-Leçon 4</td><td>Dossier 3-Leçon 14</td></tr><tr><td>7. Unité 1-Leçon 4</td><td>Dossier 3-Leçon 15</td></tr><tr><td>8. Unité 2-Leçon 5</td><td>Révision</td></tr><tr><td>9. Unité 2-Leçon 5</td><td>Dossier 4-Leçon 16</td></tr><tr><td>10. Unité 2-Leçon 6</td><td>Dossier 4-Leçon 17</td></tr><tr><td>11. Unité 2-Leçon 6</td><td>Dossier 4-Leçon 18</td></tr><tr><td>12. Unité 2-Leçon 7</td><td>Dossier 4-Leçon 19</td></tr><tr><td>13. Unité 2-Leçon 7</td><td>Dossier 4-Leçon 20</td></tr><tr><td>14. Unité 2-Leçon 8</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15. Unité 2-Leçon 8</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。		<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>	1. Unité 1-Leçon 1	Dossier 2-Leçon 9	2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 2-Leçon 10	3. Unité 1-Leçon 2	Dossier 3-Leçon 11	4. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 12	5. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 13	6. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 14	7. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 15	8. Unité 2-Leçon 5	Révision	9. Unité 2-Leçon 5	Dossier 4-Leçon 16	10. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 17	11. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 18	12. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 19	13. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 20	14. Unité 2-Leçon 8	Révision	15. Unité 2-Leçon 8	Révision
<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>																																		
1. Unité 1-Leçon 1	Dossier 2-Leçon 9																																		
2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossier 2-Leçon 10																																		
3. Unité 1-Leçon 2	Dossier 3-Leçon 11																																		
4. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 12																																		
5. Unité 1-Leçon 3	Dossier 3-Leçon 13																																		
6. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 14																																		
7. Unité 1-Leçon 4	Dossier 3-Leçon 15																																		
8. Unité 2-Leçon 5	Révision																																		
9. Unité 2-Leçon 5	Dossier 4-Leçon 16																																		
10. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 17																																		
11. Unité 2-Leçon 6	Dossier 4-Leçon 18																																		
12. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 19																																		
13. Unité 2-Leçon 7	Dossier 4-Leçon 20																																		
14. Unité 2-Leçon 8	Révision																																		
15. Unité 2-Leçon 8	Révision																																		
到達目標	フランス語の一般的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Totem 3</i>																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業ではヒアリング能力を伸ばすことを目指します。フランス語が聞き取れるようになるためには様々な要素を伸ばす必要があります。たとえば、文法力は勿論ですが、語彙力、話されている物・事に関する知識（一般教養）など。教材はPodcastで聞ける中級向けのヒアリング教材Chocolatを用います。ノーマル・スピードのインタビューが中心なので、12月に受験するTCF（フランス語能力検定試験）の準備にもなります。		第1回 ガイダンス 第2回 その週にアップロードされた Chocolat 第3回 その週にアップロードされた Chocolat 第4回 その週にアップロードされた Chocolat 第5回 その週にアップロードされた Chocolat 第6回 その週にアップロードされた Chocolat 第7回 その週にアップロードされた Chocolat 第8回 その週にアップロードされた TV5 第9回 その週にアップロードされた TV5 第10回 その週にアップロードされた TV5 第11回 その週にアップロードされた TV5 第12回 その週にアップロードされた TV5 第13回 その週にアップロードされた TV5 第14回 その週にアップロードされた TV5 第15回 その週にアップロードされた TV5	
到達目標	フランス語のインターネットサイトやメディア等を活用して実践的なフランス語を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	その週のお番組の教室外での聴解。取り扱った語彙の習得。		
テキスト、参考文献	授業中に配布する		
評価方法	テスト		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業目的は春学期と同じです。教材は少しレベルアップして、やはり Podacst で聞ける TV5 のニュースを用います。世界各地で起こっている出来事について、フランス語でどう報道されているかを理解できるようになることを目指します。		第 1 回 ガイダンス 第 2 回 その週にアップロードされた TV5 第 3 回 その週にアップロードされた TV5 第 4 回 その週にアップロードされた TV5 第 5 回 その週にアップロードされた TV5 第 6 回 その週にアップロードされた TV5 第 7 回 その週にアップロードされた TV5 第 8 回 その週にアップロードされた TV5 第 9 回 その週にアップロードされた TV5 第 10 回 その週にアップロードされた TV5 第 11 回 その週にアップロードされた TV5 第 12 回 その週にアップロードされた TV5 第 13 回 その週にアップロードされた TV5 第 14 回 その週にアップロードされた TV5 第 15 回 その週にアップロードされた TV5	
到達目標	フランス語のインターネットサイトやメディア等を活用して実践的なフランス語を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	その週他番組の教室外での聴解。取り扱った語彙の習得。		
テキスト、参考文献	授業中に配布する		
評価方法	テスト		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じ <i>Amical 1</i> を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i> 1. Unité 5-Leçon 17 2. Unité 5-Leçon 17~18 3. Unité 5-Leçon 18 4. Unité 5-Leçon 19 5. Unité 5-Leçon 19 6. Unité 5-Leçon 20 7. Unité 5-Leçon 20 8. Unité 6-Leçon 21 9. Unité 6-Leçon 21 10. Unité 6-Leçon 22 11. Unité 6-Leçon 22 12. Unité 6-Leçon 23 13. Unité 6-Leçon 23 14. Unité 6-Leçon 24 15. Unité 6-Leçon 24 ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	<i>Amical 1</i>		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じ<i>Amical 2</i>を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 2</i> - Unité 1・Leçon 1 - Unité 1・Leçon 1~2 - Unité 1・Leçon 2 - Unité 1・Leçon 3 - Unité 1・Leçon 3 - Unité 1・Leçon 4 - Unité 1・Leçon 4 - Unité 2・Leçon 5 - Unité 2・Leçon 5 - Unité 2・Leçon 6 - Unité 2・Leçon 6 - Unité 2・Leçon 7 - Unité 2・Leçon 7 - Unité 2・Leçon 8 - Unité 2・Leçon 8 ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト、参考文献	<i>Amical 2</i>		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。具体的には、共通教科書Amicalの中に登場する構文をとりあげ、その構文にいろいろな単語を入れ変えて繰り返し使います。教材は会話形式で教員が作ります。構文が含まれているその会話を、まず隣の席の人と繰り返し口頭で練習します。次に、同じ会話を書く練習をします。会話練習も筆記練習もパソコンを使用しますので、初回の授業からパソコンが使えるように準備しておいて下さい。		1. Leçon 17 2. Leçon 17 3. Leçon 18 4. Leçon 18 5. Leçon 19 6. Leçon 19 7. Leçon 19 8. Leçon 19 9. Leçon 19 10. Leçon 20 11. Leçon 20 12. Leçon 20 13. Leçon 20 14. Leçon 20 15. Leçon 20 Qu'est-ce que tu veux faire plus tard ? 不定詞の構文 「Depuis + 肯定・現在形」の構文 Depuis... + 否定・複合過去 天候の表現 peut-être を入れた近接未来形 depuis + 現在・肯定形 「命令法+bien」の構文 代名動詞+bien 代名動詞複合過去+bien comme... 「定冠詞 + 形容詞」 比較級 plus 比較級 moins 所有の表現	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した構文を繰り返し復習することが重要です。		
テキスト、参考文献	共通教科書 Amical の進度に合わせた教材を、教員が作成し、その都度授業で配布します。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。具体的には、共通教科書Amicalの中に登場する構文をとりあげ、その構文にいろいろな単語を入れ変えて繰り返し使います。教材は会話形式で教員が作ります。構文が含まれているその会話を、まず隣の席の人と繰り返し口頭で練習します。次に、同じ会話を書く練習をします。会話練習も筆記練習もパソコンを使用しますので、初回の授業からパソコンが使えるように準備しておいて下さい。		1. Leçon 1 比較表現の強調 beaucoup 2. Leçon 1 動詞＋peu/beaucoup 3. Leçon 1 oui/non/si 4. Leçon 2 ～できて、とても嬉しいです 5. Leçon 2 頻度の構文 6. Leçon 2 複合過去での副詞の位置 7. Leçon 3 depuis と il y a 使い分け 8. Leçon 3 複合過去と半過去を使う構文 9. Leçon 3 形容詞の位置 10. Leçon 3 不定詞に人称代名詞 COD, COI をつける 11. Leçon 4 命令文を間接話法に変換する 12. Leçon 4 場所の紹介 13. Leçon 5 場所を表す中性代名詞 y を含む構文 14. Leçon 5 形容詞の最上級 15. Leçon 5 trouver を使った構文	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した構文を繰り返し復習することが重要です。		
テキスト、参考文献	共通教科書 Amical の進度に合わせた教材を、教員が作成し、その都度授業で配布します。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 この授業では1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。3年生で行われる文章表現の授業につなげるための準備段階の授業として、随時、必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。 概要 基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習を行います。モデル文を示して、その文について受講生自身が自分で考えることが何よりも大切です。そのため、授業では受講生自身が辞書を調べ（どの語や表現が適切か自分自身で判断して）、実際に単語をつなげて文にしていく過程を通して、フランス語の構文の基礎を身に着けるようにします。		1. フランス語構文の基礎（総論） 2. 動詞の活用 3. フランス語の自動詞文 4. フランス語の自動詞文 5. フランス語の直接他動詞文 6. フランス語の間接他動詞文 7. 主語の種類 8. 目的語の種類（直接目的語） 9. 目的語の種類（間接目的語） 10. 状況補語の種類 11. 状況補語の表現法 12. 疑問文の特徴 13. 感嘆文の特徴 14. 否定文の特徴 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予定される単元のコラムを読み（事前学習）、授業で学んだ単元を徹底的に復習する（事後学習）。		
テキスト、参考文献	倉方秀憲 <i>Nouvelle grammaire systématique du français</i> 早美出版社		
評価方法	(1) 授業の参加度（質問・議論）35% (2) 課題に対する復習度 35% (3) 試験（期末試験、月次）30%		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 この授業では、フランス語Ⅲに引き続き、1 年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。3 年生で行われる文章表現の授業につなげるための準備段階の授業として、随時、必要に応じて1 年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。 概要 秋学期では、基本的な構文力を定着させるために、より複雑で少し長めの構文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法、等）練習をとりいれます。		1. フランス語構文の基礎（複文） 2. 文の接続（等位接続詞） 3. 文の接続（従属接続詞） 4. 文の接続（接続副詞） 5. 文の接続（並置） 6. 関係代名詞と関係節 7. 関係代名詞と関係節 8. 状況補語（原因） 9. 状況補語（方法） 10. 状況補語（仮定） 11. 状況補語（譲歩） 12. 直接・間接話法 13. テキストの種類 14. 物語と論述文 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予定される単元のコラムを読み（事前学習）、授業で学んだ単元を徹底的に復習する（事後学習）。		
テキスト、参考文献	倉方秀憲 <i>Nouvelle grammaire systématique du français</i> 早美出版社		
評価方法	（1）授業の参加度（質問・議論）35%（2）課題に対する復習度 35%（3）試験（期末試験、月次）30%		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	熊倉 良子
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：この授業では、1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。 概要：下記の教科書を使用し、1年生で学習した文法項目について随時復習しながら、フランス語の文の構造を学習します。また、文章の構造を覚えるための発音練習も行います。具体的な授業の進め方については、初回の授業で説明します。		1. イントロダクション、基本文型（1） 2. 基本文型（2） 3. 基本文型（3） 4. 基本文型（4） 5. 基本文型（5） 6. 基本文型のヴァリエーション（1） 7. 基本文型のヴァリエーション（2） 8. 基本文型のヴァリエーション（3） 9. 受動構文（1） 10. 受動構文（2） 11. 代名動詞構文（1） 12. 代名動詞構文（2） 13. 代名動詞構文（3） 14. 代名動詞構文（4） 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回の授業で扱うテキストの箇所は事前に目を通してきてください。また、課題が出された際は期日までに必ず解いてきてください。		
テキスト、参考文献	石野好一著《改訂版》『フランス語構文練習帳』（第三書房、2014 年）		
評価方法	期末試験 70%、平常点 30%		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	熊倉 良子
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：前期に引き続き、この授業では、1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。 概要：下記の教科書を使用し、1年生で学習した文法項目について随時復習しながら、フランス語の文の構造を学習します。また、文章の構造を覚えるための発音練習も行います。具体的な授業の進め方については、初回の授業で説明します。		1. 不定詞構文Ⅰ（1） 2. 不定詞構文Ⅰ（2） 3. 不定詞構文Ⅰ（3） 4. 不定詞構文Ⅰ（4） 5. 不定詞構文Ⅰ（5） 6. 不定詞構文Ⅰ（6） 7. 不定詞構文Ⅰ（7） 8. 不定詞構文Ⅱ（1） 9. 不定詞構文Ⅱ（2） 10. 不定詞構文Ⅱ（3） 11. 目的節構文（1） 12. 目的節構文（2） 13. 目的節構文（3） 14. 目的節構文（4） 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回の授業で扱うテキストの箇所は事前に目を通してきてください。また、課題が出された際は期日までに必ず解いてきてください。		
テキスト、参考文献	石野好一著《改訂版》『フランス語構文練習帳』（第三書房、2014 年）		
評価方法	期末試験 70%、平常点 30%		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語の初級文法を学び終えた人を対象に、フランス語の構文について学びます。この授業で用いる予定の教科書（下記参照）は文法事項の復習も兼ねることができるように作られています。 授業の進め方としては、まず各課ごとに挙げられている文法事項を丁寧に説明します。それをふまえた上で練習問題（和文仏訳）に取り組んでもらいます。この教科書はCDが付いていて正解を「耳で」確認することができます。その意味ではリスニング力を鍛える、といった利用の仕方も可能でしょう。		1. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 2. 第1課「名詞の性と冠詞」 3. 第2課「動詞 être と形容詞、不定冠詞」 4. 第3課「動詞 avoir と部分冠詞」 5. 第4課「第1群規則動詞と否定文」 6. 第5課「動詞 aller, venir と所有形容詞」 7. 第6課「第2群規則動詞と疑問形容詞」 8. 第7課「動詞 pouvoir, vouloir と強勢形人称代名詞」 9. 第8課「命令形と指示代名詞：ce, cela, ça, ceci」 10. 第9課「人称代名詞」 11. 第10課「動詞 entendre / écouter, voir / regarder」 12. 第11課「指示形容詞と疑問副詞」 13. 第12課「動詞 faire と非人称動詞」 14. 第13課「比較級と最上級」 15. 前々回、および前回の課題の解説&理解度をはかるためのテスト	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習復習を勧めます		
テキスト、参考文献	松村剛『はじめての仏作文』（朝日出版社）		
評価方法	毎回の課題（50%）と最終授業時のテスト（50%）で評価します。		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです		1. 14 課「複合過去」 2. 15 課「代名動詞」 3. 16 課「疑問代名詞と関係代名詞」 4. 17 課「接続法」 5. 18 課「受動態と直説法半過去」 6. 19 課「未来形」 7. 20 課「動詞 faire / laisser + 不定法」 8. 21 課「大過去と関係代名詞 dont, où」 9. 22 課「中性代名詞」 10. 23 課「現在分詞とジェロンディフ」 11. 24 課「条件法」 12. 25 課「間接話法」 13. 26 課「代名詞 lequel と指示代名詞 celui」 14. 前回の課題の解説 15. 理解度をはかるためのテスト	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前期と同じです		
テキスト、参考文献	前期と同じです		
評価方法	前期と同じです		

08 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語中級者向けに編まれたテキストの講読を通して、一年次に習った文法事項の確認と復習をします。とくに訳読の練習によって、生きたフランス語を読み解く力をつけるステップとします。 教科書は、『A la page 精選集 2010-2012』を使用します。「ストとデモ」、「大学受験」、「クール・ジャパン」、「エッフェル塔」など、私たちにも身近なトピックを通して、語学のみならず、フランスならではの文化事象や社会システムも学ぶことができます。関心を惹かれたトピックによっては、3年次のゼミ選択の参考にもなるでしょう。 授業計画の各タイトルは、教科書の章題と対応しています。事前にならず予習をしてくる。適宜、補足資料も配布します。毎回の授業への参加度や課題の提出状況、および期末試験の成績をもって評価します。		1. 授業の概要確認 2. 『モナ・リザ』盗難事件 3. パリで暮らすジャポネーズ 4. ストとデモはフランスの代名詞 5. サン・ティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼 6. ミネラル・ウォーターvs 水道水 7. 文法の復習Ⅰ 8. シャネル：「わたしがモードよ！」 9. さあ、大学受験の季節 10. 「クール・ジャパン」の採点 11. 南仏生まれの球技 12. 「ラ・マルセイエーズ」にブーイング 13. 文法の復習Ⅱ 14. エッフェル塔 120 周年 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で読むテキストの予習をすること。		
テキスト、参考文献	『A la page 精選集 2010-2012』、朝日出版社、2014 年。		
評価方法	授業参加度（30％）、期末試験（70％）		

08 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語中級者向けに編まれたテキストの講読を通して、一年次に習った文法事項の確認と復習をします。とくに訳読の練習によって、生きたフランス語を読み解く力をつけるステップとします。 教科書は、『A la page 精選集 2010-2012』を使用します。「ユーロディズニー」、「ヨーロッパとイスラム教」、「女性の社会進出」など、私たちにも身近なトピックを通して、語学のみならず、フランスならではの文化事象や社会システムも学ぶことができます。関心を惹かれたトピックによっては、3年次のゼミ選択の参考にもなるでしょう。 授業計画の各タイトルは、教科書の章題と対応しています。事前にならず予習をしてくる。適宜、補足資料も配布します。毎回の授業への参加度や課題の提出状況、および期末試験の成績をもって評価します。		1. 授業の概要確認 2. ヨーロッパで唯一のディズニーランド 3. ヨーロッパにおけるイスラム教 4. 原発政策の行方 5. 女性の社会進出の歩み 6. 文法の復習 III 7. 化粧品のパイオニア 8. パックスは第 3 の選択肢 9. フランス式エリート養成教育 10. 救国の少女、ジャンヌ・ダルク 11. フランス語圏ケベックの歴史 12. 文法の復習 IV 13. パラ色の街、トゥールーズ 14. ノエルのデザートを召し上がれ 15. まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で読むテキストの予習をすること。		
テキスト、参考文献	『A la page 精選集 2010-2012』、朝日出版社、2014 年。		
評価方法	授業参加度（30%）、期末試験（70%）		

08 年度以降	フランス芸術文化入門Ⅰ	担当者	筒井 伸保																																																												
講義目的、講義概要		授業計画																																																													
この授業は、フランスの芸術文化に関する基礎知識の習得、そして「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を目的としています。 春学期は歴史、音楽、文学、美術、映画等の様々なテーマを学びます。これらの分野はばらばらに存在しているわけではなく、必ずどこかで関連しあい、つながりあっています。全講義を通じて、それぞれのトピックスがどのようにして現在のフランスを形作っているのかを考えるようにしてください。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。 初回の授業に詳細を説明しますので、必ず出席してください。		<table><tr><td>1.</td><td>ガイダンス</td><td>(筒井伸保)</td><td>4/7</td></tr><tr><td>2.</td><td>フランスの美術 1</td><td>(阿部明日香)</td><td>4/14</td></tr><tr><td>3.</td><td>フランスの美術 2</td><td>(阿部明日香)</td><td>4/21</td></tr><tr><td>4.</td><td>フランスの美術 3</td><td>(阿部明日香)</td><td>4/28</td></tr><tr><td>5.</td><td>フランスの美術 4</td><td>(阿部明日香)</td><td>5/12</td></tr><tr><td>6.</td><td>19 世紀後半のフランスのピアノ音楽 1 (松橋麻里)</td><td></td><td>5/19</td></tr><tr><td>7.</td><td>19 世紀後半のフランスのピアノ音楽 2 (松橋麻里)</td><td></td><td>5/26</td></tr><tr><td>8.</td><td>フランス近代文学 1</td><td>(福田美雪)</td><td>6/2</td></tr><tr><td>9.</td><td>フランス近代文学 2</td><td>(福田美雪)</td><td>6/9</td></tr><tr><td>10.</td><td>フランス近代文学 3</td><td>(福田美雪)</td><td>6/16</td></tr><tr><td>11.</td><td>フランス近代文学 4</td><td>(福田美雪)</td><td>6/23</td></tr><tr><td>12.</td><td>フランスの詩 1</td><td>(湯浅博雄)</td><td>6/30</td></tr><tr><td>13.</td><td>フランスの詩 2</td><td>(湯浅博雄)</td><td>7/7</td></tr><tr><td>14.</td><td>まとめ 1</td><td>(筒井伸保)</td><td>7/14</td></tr><tr><td>15.</td><td>まとめ 2</td><td></td><td></td></tr></table>		1.	ガイダンス	(筒井伸保)	4/7	2.	フランスの美術 1	(阿部明日香)	4/14	3.	フランスの美術 2	(阿部明日香)	4/21	4.	フランスの美術 3	(阿部明日香)	4/28	5.	フランスの美術 4	(阿部明日香)	5/12	6.	19 世紀後半のフランスのピアノ音楽 1 (松橋麻里)		5/19	7.	19 世紀後半のフランスのピアノ音楽 2 (松橋麻里)		5/26	8.	フランス近代文学 1	(福田美雪)	6/2	9.	フランス近代文学 2	(福田美雪)	6/9	10.	フランス近代文学 3	(福田美雪)	6/16	11.	フランス近代文学 4	(福田美雪)	6/23	12.	フランスの詩 1	(湯浅博雄)	6/30	13.	フランスの詩 2	(湯浅博雄)	7/7	14.	まとめ 1	(筒井伸保)	7/14	15.	まとめ 2		
1.	ガイダンス	(筒井伸保)	4/7																																																												
2.	フランスの美術 1	(阿部明日香)	4/14																																																												
3.	フランスの美術 2	(阿部明日香)	4/21																																																												
4.	フランスの美術 3	(阿部明日香)	4/28																																																												
5.	フランスの美術 4	(阿部明日香)	5/12																																																												
6.	19 世紀後半のフランスのピアノ音楽 1 (松橋麻里)		5/19																																																												
7.	19 世紀後半のフランスのピアノ音楽 2 (松橋麻里)		5/26																																																												
8.	フランス近代文学 1	(福田美雪)	6/2																																																												
9.	フランス近代文学 2	(福田美雪)	6/9																																																												
10.	フランス近代文学 3	(福田美雪)	6/16																																																												
11.	フランス近代文学 4	(福田美雪)	6/23																																																												
12.	フランスの詩 1	(湯浅博雄)	6/30																																																												
13.	フランスの詩 2	(湯浅博雄)	7/7																																																												
14.	まとめ 1	(筒井伸保)	7/14																																																												
15.	まとめ 2																																																														
到達目標	フランスの芸術・文化（文学・言語・音楽・思想・美術など）に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。																																																														
事前・事後学修の内容	授業中に紹介される作品の中から、自分自身が特に気になるものを見つけ、実際に触れにゆくこと。																																																														
テキスト、参考文献	テキストはプリントなど。参考文献は各教員から授業中に指示されます。																																																														
評価方法	各教員ごとに小テストまたはコメントペーパーを課す。																																																														

08 年度以降	フランス現代社会入門Ⅱ	担当者	筒井 伸保																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
講義目的は上記を参照してください。 秋学期にはフランスの食文化、思想、文学、旅行記等を中心に学んでゆきます。 1 年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、フランスの文化に親しむための導入となることを目的としています。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。		<table><tr><td>1. ガイダンス</td><td>(筒井伸保)</td><td>9/29</td></tr><tr><td>2. フランスの食文化 1</td><td>(江花輝昭)</td><td>10/6</td></tr><tr><td>3. フランスの食文化 2</td><td>(江花輝昭)</td><td>10/13</td></tr><tr><td>4. フランスの食文化 3</td><td>(江花輝昭)</td><td>10/20</td></tr><tr><td>5. フランスの思想 1</td><td>(若森榮樹)</td><td>10/27</td></tr><tr><td>6. フランスの思想 2</td><td>(若森榮樹)</td><td>11/10</td></tr><tr><td>7. フランスの思想 3</td><td>(若森榮樹)</td><td>11/17</td></tr><tr><td>8. 旅と文学 1</td><td>(野澤督)</td><td>11/24</td></tr><tr><td>9. 旅と文学 2</td><td>(野澤督)</td><td>12/1</td></tr><tr><td>10. 旅と文学 3</td><td>(野澤督)</td><td>12/8</td></tr><tr><td>11. 大衆文学 1</td><td>(筒井伸保)</td><td>12/15</td></tr><tr><td>12. 大衆文学 2</td><td>(筒井伸保)</td><td>12/22</td></tr><tr><td>13. 大衆文学 3</td><td>(筒井伸保)</td><td>1/12</td></tr><tr><td>14. 大衆文学 4</td><td>(筒井伸保)</td><td>1/19</td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td><td></td></tr></table>		1. ガイダンス	(筒井伸保)	9/29	2. フランスの食文化 1	(江花輝昭)	10/6	3. フランスの食文化 2	(江花輝昭)	10/13	4. フランスの食文化 3	(江花輝昭)	10/20	5. フランスの思想 1	(若森榮樹)	10/27	6. フランスの思想 2	(若森榮樹)	11/10	7. フランスの思想 3	(若森榮樹)	11/17	8. 旅と文学 1	(野澤督)	11/24	9. 旅と文学 2	(野澤督)	12/1	10. 旅と文学 3	(野澤督)	12/8	11. 大衆文学 1	(筒井伸保)	12/15	12. 大衆文学 2	(筒井伸保)	12/22	13. 大衆文学 3	(筒井伸保)	1/12	14. 大衆文学 4	(筒井伸保)	1/19	15. まとめ		
1. ガイダンス	(筒井伸保)	9/29																																														
2. フランスの食文化 1	(江花輝昭)	10/6																																														
3. フランスの食文化 2	(江花輝昭)	10/13																																														
4. フランスの食文化 3	(江花輝昭)	10/20																																														
5. フランスの思想 1	(若森榮樹)	10/27																																														
6. フランスの思想 2	(若森榮樹)	11/10																																														
7. フランスの思想 3	(若森榮樹)	11/17																																														
8. 旅と文学 1	(野澤督)	11/24																																														
9. 旅と文学 2	(野澤督)	12/1																																														
10. 旅と文学 3	(野澤督)	12/8																																														
11. 大衆文学 1	(筒井伸保)	12/15																																														
12. 大衆文学 2	(筒井伸保)	12/22																																														
13. 大衆文学 3	(筒井伸保)	1/12																																														
14. 大衆文学 4	(筒井伸保)	1/19																																														
15. まとめ																																																
到達目標	フランスの芸術・文化（文学・言語・音楽・思想・美術など）に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。																																															
事前・事後学修の内容	授業中に紹介される作品の中から、自分自身が特に気になるものを見つけ、実際に触れにゆくこと。																																															
テキスト、参考文献	テキストはプリントなど。参考文献は各教員から授業中に指示されます。																																															
評価方法	各教員ごとに小テストまたはコメントペーパーを課す。																																															

08 年度以降	フランス現代社会入門 I	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの社会について様々な角度から幅広い基礎的な知識を得ることを目的とする。全体の調整は科目担当者（鈴木隆）が行うが、講義は複数の教員が交替でそれぞれの専門分野を踏まえて行う。講義の概要は以下の通りである。 『地域』では、フランスの地方についての基礎的な知識を習得する。地方の制度、海外フランス、フランス本土すなわちヨーロッパのフランスの22のレジオン（州）の概略を学ぶ。 『歴史』では、現代フランスの基本情報（政治世祖、人口、経済、言語、宗教、等）を確認し、それらの歴史的背景について概観する。 『教育と生活』では、公教育制度とその成立過程の概要、小学校から大学までの学生の日常生活について学ぶ。 『フランスの地方小都市の日常生活』では、フランスのある地方の小都市の日常生活を経済、学業、文化などあらゆる側面から捉え、その都市が安定した人口を維持している理由を考える。 毎回の授業において授業参加等を確認するための調査票を配布して回収する。成績評価のための試験は、各教員がそれぞれの担当授業の枠内で行うので、その指示に従うこと。		1. はじめに（鈴木隆） 2. 図書館文献検索法（鈴木隆） 3. 外部講師講演（樋口陽一） 4. フランスの地域 1（鈴木隆） 5. フランスの地域 2（鈴木隆） 6. フランスの地域 3（鈴木隆） 7. フランスの地域 4（鈴木隆） 8. フランスの歴史 1 藤田朋久） 9. フランスの歴史 2（藤田朋久） 10. フランスの歴史 3（藤田朋久） 11. フランスの教育と生活 1（中村公子） 12. フランスの教育と生活 2（中村公子） 13. フランスの教育と生活 3（中村公子） 14. フランスの地方小都市の日常生活（水林ミシェル） 15. まとめ（鈴木隆）	
到達目標	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に、例えば事典などを活用して、各講義の主題に関するある程度の知識を得ておくことが望ましい。事後には、講義で学んだ知識を後の専門的学習の基礎として修得できたか自ら確認すること。		
テキスト、参考文献	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示がある。		
評価方法	試験。それぞれの授業担当者が授業の枠内で行うので、その指示に従うこと。		

08 年度以降	フランス現代社会入門Ⅱ	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの社会について様々な角度から幅広い基礎的な知識を得ることを目的とする。全体の調整は科目担当者（鈴木隆）が行うが、複数の教員が交替でそれぞれの専門分野を踏まえて講義を行う。講義の概要は以下の通りである。 『フランス語学入門』では次の基礎を学ぶ。フランス語圏、フランス語史概説、現代フランス語の特徴。ロマンス諸語、古英語とフランス語、フランス語源の日本語、フランス語に入った外国語。統語論、形態論、音韻論、語用論等、言語学の各分野でのフランス語分析事例。 『フランスの政治経済』では、フランス第5共和政の政治システムの特徴や経済の現状についての基礎的を学ぶ。 『パリ』では、現代パリについての基礎知識、19世紀の第二帝政期におけるナポレオン3世とオスマンによるパリ大改造について学ぶ。 『フランコフォニー』では、フランス語を使用している国々の状況、歴史およびフランコフォニー国際機関について学ぶ。 毎回の授業において授業参加等を確認するための調査票を配布して回収する。成績評価のための試験は、各教員がそれぞれの担当授業の枠内で行うので、その指示に従うこと。		1. はじめに（鈴木隆） 2. フランス語学入門1（田中善英） 3. フランス語学入門2（田中善英） 4. フランス語学入門3（田中善英） 5. フランスの政治経済1（廣田愛理） 6. フランスの政治経済2（廣田愛理） 7. フランスの政治経済3（廣田愛理） 8. パリ1（横地卓哉） 9. パリ2（横地卓哉） 10. パリ3（横地卓哉） 11. フランコフォニー1（ヴァネ・フィリップ） 12. フランコフォニー2（ヴァネ・フィリップ） 13. フランコフォニー3（ヴァネ・フィリップ） 14. まとめ1（鈴木隆） 15. まとめ2（鈴木隆）	
到達目標	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に、例えば事典などを活用して、各講義の主題に関するある程度の知識に触れておくことが望ましい。事後には、講義で学んだ知識を後の専門的学習の基礎として修得できたか自ら確認すること。		
テキスト、参考文献	それぞれの授業担当者から授業内で直接指示がある。		
評価方法	試験。それぞれの授業担当者が授業の枠内で行うので、その指示に従うこと。		

08 年度以降	総合フランス語 I	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groups 2,3,4 et 5 : <i>Amical 2</i> à partir de l'unité 3. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. Attention au numéro de votre groupe : il est différent de celui de l'année dernière.		<table><tr><td></td><td><i>Amical 2</i></td><td><i>Reflets 2</i></td></tr><tr><td>1.</td><td>Unité 3-Leçon 9</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 3-Leçon 9</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 3-Leçon 10</td><td>Dossier 5</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 3-Leçon 10</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 3-Leçon 11</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 3-Leçon 11</td><td>Dossier 6</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 3-Leçon 12</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 3-Leçon 12</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 4-Leçon 13</td><td>Dossier 7</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 4-Leçon 13</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 4-Leçon 14</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 4-Leçon 14</td><td>Dossier 8</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 4-Leçon 15</td><td>Révision</td></tr><tr><td>14.</td><td>Unité 4-Leçon 15</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></table> ※原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。			<i>Amical 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1.	Unité 3-Leçon 9	Dossier 5	2.	Unité 3-Leçon 9	Dossier 5	3.	Unité 3-Leçon 10	Dossier 5	4.	Unité 3-Leçon 10	Dossier 6	5.	Unité 3-Leçon 11	Dossier 6	6.	Unité 3-Leçon 11	Dossier 6	7.	Unité 3-Leçon 12	Dossier 7	8.	Unité 3-Leçon 12	Dossier 7	9.	Unité 4-Leçon 13	Dossier 7	10.	Unité 4-Leçon 13	Dossier 8	11.	Unité 4-Leçon 14	Dossier 8	12.	Unité 4-Leçon 14	Dossier 8	13.	Unité 4-Leçon 15	Révision	14.	Unité 4-Leçon 15	Révision	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1.	Unité 3-Leçon 9	Dossier 5																																																	
2.	Unité 3-Leçon 9	Dossier 5																																																	
3.	Unité 3-Leçon 10	Dossier 5																																																	
4.	Unité 3-Leçon 10	Dossier 6																																																	
5.	Unité 3-Leçon 11	Dossier 6																																																	
6.	Unité 3-Leçon 11	Dossier 6																																																	
7.	Unité 3-Leçon 12	Dossier 7																																																	
8.	Unité 3-Leçon 12	Dossier 7																																																	
9.	Unité 4-Leçon 13	Dossier 7																																																	
10.	Unité 4-Leçon 13	Dossier 8																																																	
11.	Unité 4-Leçon 14	Dossier 8																																																	
12.	Unité 4-Leçon 14	Dossier 8																																																	
13.	Unité 4-Leçon 15	Révision																																																	
14.	Unité 4-Leçon 15	Révision																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができるといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

08 年度以降	総合フランス語Ⅱ	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 9 ; les groups 2,3,4 et 5 : <i>Amical 2</i> à partir de l'unité 4. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite. Attention au numéro de votre groupe : il est différent de celui de l'année dernière.		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 2</i></th><th><i>Reflets 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>Unité 4-Leçon 16</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>2.</td><td>Unité 4-Leçon 16</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>3.</td><td>Unité 5-Leçon 17</td><td>Dossier 9</td></tr><tr><td>4.</td><td>Unité 5-Leçon 17</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>5.</td><td>Unité 5-Leçon 18</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>6.</td><td>Unité 5-Leçon 18</td><td>Dossier 10</td></tr><tr><td>7.</td><td>Unité 5-Leçon 19</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>8.</td><td>Unité 5-Leçon 19</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>9.</td><td>Unité 5-Leçon 20</td><td>Dossier 11</td></tr><tr><td>10.</td><td>Unité 5-Leçon 20</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>11.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>12.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Dossier 12</td></tr><tr><td>13.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Révision</td></tr><tr><td>14.</td><td>Unité 6-Leçon 21</td><td>Révision</td></tr><tr><td>15.</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr></tbody></table> Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 5 (<i>Amiacal 2</i>).			<i>Amical 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1.	Unité 4-Leçon 16	Dossier 9	2.	Unité 4-Leçon 16	Dossier 9	3.	Unité 5-Leçon 17	Dossier 9	4.	Unité 5-Leçon 17	Dossier 10	5.	Unité 5-Leçon 18	Dossier 10	6.	Unité 5-Leçon 18	Dossier 10	7.	Unité 5-Leçon 19	Dossier 11	8.	Unité 5-Leçon 19	Dossier 11	9.	Unité 5-Leçon 20	Dossier 11	10.	Unité 5-Leçon 20	Dossier 12	11.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 12	12.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 12	13.	Unité 6-Leçon 21	Révision	14.	Unité 6-Leçon 21	Révision	15.	Révision	Révision
	<i>Amical 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1.	Unité 4-Leçon 16	Dossier 9																																																	
2.	Unité 4-Leçon 16	Dossier 9																																																	
3.	Unité 5-Leçon 17	Dossier 9																																																	
4.	Unité 5-Leçon 17	Dossier 10																																																	
5.	Unité 5-Leçon 18	Dossier 10																																																	
6.	Unité 5-Leçon 18	Dossier 10																																																	
7.	Unité 5-Leçon 19	Dossier 11																																																	
8.	Unité 5-Leçon 19	Dossier 11																																																	
9.	Unité 5-Leçon 20	Dossier 11																																																	
10.	Unité 5-Leçon 20	Dossier 12																																																	
11.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 12																																																	
12.	Unité 6-Leçon 21	Dossier 12																																																	
13.	Unité 6-Leçon 21	Révision																																																	
14.	Unité 6-Leçon 21	Révision																																																	
15.	Révision	Révision																																																	
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができるといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。																																																		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																		
テキスト、参考文献	未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>																																																		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																		

08 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Au temps des smartphones et d'internet, écrire est toujours un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses idées et sentiments. Dans ce but, on utilise des règles de logique à découvrir en classe : 1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition. 2) Travail sur le plan et comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe. - À chaque cours, écrire un petit message de la forme Tweet. - Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Ce « grand devoir » est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.		1. Présentation 2-3. Découverte de la logique d'un texte (ex. de reconstitution) 4-6. Découverte des articulations d'un texte (ex de reconstitution, notion de plan) (5. 1^{ère} version du grand devoir) 7-8. Expressions de la cause (8. 2^e version du grand devoir) 9-10. Expressions de la conséquence 11-12. Expressions du but (12. 3^e version du grand devoir) 13-14. Expressions de l'opposition 15. commentaires sur la version finale du grand devoir.	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Écrire un petit message (format tweet), préparer les exercices, faire 3 fois le « grand devoir ».		
テキスト、参考文献	Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2016.		
評価方法	La 3 ^e version du « grand devoir » est notée.		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir ci-dessus les explications données pour le 1 ^{er} semestre.		1. Présentation 2-3. Comment lire et comprendre un sujet de devoir. 4-6. Comment rechercher des idées. (5. 1ère version du grand devoir) 7-8. Comment construire un plan. (8. 2e version du grand devoir) 9-11. Étude de différents types de plans. 12-13. Étude de différents types d'introduction. (12. 3e version du grand devoir) 14. Comment conclure ? 15. Commentaires sur la version finale du « grand devoir ».	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Écrire un petit message (format tweet), préparer les exercices, faire 3 fois le « grand devoir ».		
テキスト、参考文献	Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2016.		
評価方法	La 3 ^e version du « grand devoir » est notée.		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅰ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 作文が上達するためには、書いたものを直してもらって自分の間違いに気づくしかありません。この授業では、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考え、その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけることを目指したいと思います。テキストは単行本「まっかなほん」シリーズから面白そうな箇所を抜粋して訳していきます。		第1回： ガイダンス 第2回：「イタリア人のまっかなほん」 1 第3回：「イタリア人のまっかなほん」 2 第4回：「イタリア人のまっかなほん」 3 第5回：「イタリア人のまっかなほん」 4 第6回：「イタリア人のまっかなほん」 5 第7回：「イタリア人のまっかなほん」 6 第8回：「イタリア人のまっかなほん」 7 第9回：「アメリカ人のまっかなほん」 1 第10回：「アメリカ人のまっかなほん」 2 第11回：「アメリカ人のまっかなほん」 3 第12回：「アメリカ人のまっかなほん」 4 第13回：「アメリカ人のまっかなほん」 5 第14回：「アメリカ人のまっかなほん」 6 第15回：「アメリカ人のまっかなほん」 7	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業分の日本語の文（10行程度）を仏訳してくる		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	試験		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		第1回： ガイダンス 第2回：「フランス人のまっかなほんと」 1 第3回：「フランス人のまっかなほんと」 2 第4回：「フランス人のまっかなほんと」 3 第5回：「フランス人のまっかなほんと」 4 第6回：「フランス人のまっかなほんと」 5 第7回：「フランス人のまっかなほんと」 6 第8回：「フランス人のまっかなほんと」 7 第9回：「日本人のまっかなほんと」 1 第10回：「日本人のまっかなほんと」 2 第11回：「日本人のまっかなほんと」 3 第12回：「日本人のまっかなほんと」 4 第13回：「日本人のまっかなほんと」 5 第14回：「日本人のまっかなほんと」 6 第15回：「日本人のまっかなほんと」 7	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業分の日本語の文（10行程度）を仏訳してくる		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	試験		

08 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
和文仏訳。1、2年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。簡単な単文(主語+動詞の文) から、複文(様々な従属節(時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文)までの練習を行う。人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず1回目の授業に出席すること。昨年度と同一内容なので、昨年度履修した学生は今年度履修しても学習上意味がないので注意すること。 和仏辞典についての注意:和仏辞典(電子版を含む)の付録の簡単な和仏語彙集や、ポケット版仏和・和仏辞典では足りない。白水社『現代和仏小辞典』か、旺文社『プチ・ロワイヤル和仏辞典』か、三省堂『コンサイス和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。		1. 授業の説明。人数過多の場合は受講者制限を行う。 2. プリントに沿って授業を進める。プリント 1。 3. プリント 1 続き。 4. プリント 1 続き。 5. プリント 1 続き。 6. プリント 1 続き。 7. プリント 2。 8. プリント 2 続き。 9. プリント 2 続き。 10. プリント 2 続き。 11. プリント 2 続き。 12. プリント 3。 13. プリント 3 続き。 14. プリント 3 続き。 15. プリント 3 続き。	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業はプリントの練習問題の日本語文を仏訳するので事前に自宅で試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員が当たるので予習が必須である。		
テキスト、参考文献	プリント。和仏辞典については上記参照。		
評価方法	学期末試験 (8 割) に授業への参加度 (2 割) を加味する。		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
上記参照。 春学期未履修者の履修は可。		1. 春学期の続き。 プリントに沿って授業を進める。プリント 4。 2. プリント 4 続き。 3. プリント 4 続き。 4. プリント 4 続き。 5. プリント 4 続き。 6. プリント 5。 7. プリント 5 続き。 8. プリント 5 続き。 9. プリント 5 続き。 10. プリント 5 続き。 11. プリント 6。 12. プリント 6 続き。 13. プリント 6 続き。 14. プリント 6 続き。 15. プリント 6 続き。	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	春学期参照。		
テキスト、 参考文献	春学期参照。		
評価方法	春学期参照。		

08 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Présentation du cours. Ecrire en toute liberté. 2. Se présenter par écrit 3. Présenter sa famille 4. Écrire sur son quartier 5. Écrire sur sa ville natale 6. Écrire à un(e) ami(e) pour être hébergé 7. Écrire sur un souvenir d'enfance (1) 8. Écrire sur un souvenir d'enfance (2) 9. Écrire sur un livre qu'on a aimé (1) 10. Écrire sur un livre qu'on a aimé (2) 11. Écrire sur un film qu'on a aimé (1) 12. Écrire sur un film qu'on a aimé (2) 13. Écrire pour refuser un petit boulot (1) 14. Écrire pour refuser un petit boulot (2) 15. Bilan	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Réécrire les phrases corrigées dans un cahier. Élaborer un carnet de vocabulaire.		
テキスト、参考文献	Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		
評価方法	Contrôle continu. Participation régulière aux cours souhaitée. Deux devoirs à remettre.		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Mise en train. Écrire en toute liberté. 2. Écrire sur un travail que j'aimerais faire (1) 3. Écrire sur un travail que j'aimerais faire (2) 4. Écrire sur un pays où j'aimerais vivre (1) 5. Écrire sur un pays où j'aimerais vivre (2) 6. Écrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales (1) 7. Écrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales (2) 8. Quel enfant j'étais ? (1) 9. Quel enfant j'étais ? (2) 10. Rêver : ma vie dans dix ans (1) 11. Rêver : ma vie dans dix ans (2) 12. Mon école idéale 13. Mon université idéale 14. Écrire une histoire d'amour 15. Bilan	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Réécrire les phrases corrigées dans un cahier. Élaborer un carnet de vocabulaire.		
テキスト、参考文献	Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		
評価方法	Contrôle continu. Participation régulière aux cours souhaitée. Deux devoirs à remettre.		

08 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	C. ラビニヤス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a différents objectifs : 1. s'exprimer dans des situations réelles et concrètes 2. comprendre et analyser des documents écrits 3. apprendre à construire une argumentation 4. revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire 5. faire des dictées En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à : - vous présenter - proposer, accepter et refuser une invitation - faire une réservation - écrire une carte postale - etc.		1. Se présenter 2. Donner des renseignements sur soi 3. Proposer / inviter 4. Annoncer un événement 5. Accepter / refuser une invitation 6. Remercier / s'excuser 7. Bilan des leçons 1 à 6 8. Féliciter 9. Écrire une carte postale 10. Faire une réservation / faire une demande polie 11. Répondre à une proposition 12. Rédiger un message pour donner des instructions 13. Rédiger des consignes, donner des directions 14. Bilan des leçons 7 à 12 15. Examen final	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題（短い文作）を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 1 アシェット・ジャポン, ISBN : 978-4-907970-06-2		
評価方法	定期試験 40%、宿題 : 40%、積極的な参加 : 20%		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C. ラビニヤス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a différents objectifs : 1. s'exprimer dans des situations réelles et concrètes 2. comprendre et analyser des documents écrits 3. apprendre à construire une argumentation 4. revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire 5. faire des dictées En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à rédiger des textes plus élaborés qu'au semestre précédent. Vous produirez des textes descriptifs, argumentatifs, littéraires, imaginaires, etc.		1. Faire une description physique 2. Faire une description psychologique 3. Raconter un événement passé (1) 4. Raconter un événement passé (2) 5. Rédiger une lettre formelle (1) 6. Rédiger une lettre formelle (2) 7. Bilan des leçons 1 à 6 8. Rédiger un texte argumentatif (1) 9. Faire une comparaison 10. Rédiger un texte argumentatif (2) 11. Exprimer son opinion 12. Rédiger un texte imaginaire (1) 13. Rédiger un texte imaginaire (2) 14. Bilan des leçons 7 à 12 15. Examen final	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題（短い文作）を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 2 アシェット・ジャポン, ISBN : 978-4-907970-08-6		
評価方法	定期試験 40%、宿題 : 40%、積極的な参加 : 20%		

08 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	C. ルメタ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif d'apprendre à rédiger des textes en français sur des sujets variés liés à la vie personnelle et quotidienne ainsi qu' à la vie sociale et professionnelle, en reprenant des éléments lexicaux et / ou grammaticaux de documents modèles. Il vise également à développer la créativité et à découvrir le plaisir d'écrire en français. Déroulement du cours : - lecture d'un court texte ou document modèle - exercices de compréhension et d'analyse - point grammatical - composition seul ou en groupe - partage des compositions en classe		1. Mise en bouche et jeu d'écriture 2. Voyager1 : découverte d'un texte, exercices de compréhension 3. Voyager2 : exercices de compréhension, suite 4.Voyager3 : écriture et partage 5. Trouver un travail1: découvertes de petites annonces, exercices de compréhension 6. Trouver un travail2 : exercices de compréhension, suite 7. Trouver un travail3 : écriture et partage 8. Conversations volées1: découverte d'un texte littéraire, exercices de compréhension 9. Conversations volées2: exercices de compréhension, suite 10. Conversation volées3 : écriture et partage 11. Une lettre d'amour1: découverte d'un texte, exercices de compréhension 12. Une lettre d'amour2: exercices de compréhension, suite 13. Une lettre d'amour3 : écriture et partage 14. Épilogue 15. Test	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pour le déroulement harmonieux du cours, les exercices de compréhension des documents modèles doivent impérativement être préparés à la maison. Des exercices de préparation à la composition et certaines compositions devront également être réalisés à la maison à la demande du professeur.		
テキスト、参考文献	Textes distribués en classe Apporter des dictionnaires (bilingue et monolingue)		
評価方法	Contrôle continu (70%). La présence est incluse dans le contrôle continu. <u>Plus de 3 absences non justifiées entraînent l'exclusion du cours.</u> Un test à la fin du trimestre (30%)		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C. ルメタ
講義目的、講義概要		授業計画	
Comme au premier semestre, ce cours d'expression écrite a pour objectif d'apprendre à rédiger des textes en français sur des sujets variés liés à la vie personnelle et quotidienne ainsi qu'à la vie sociale et professionnelle, en reprenant des éléments lexicaux et / ou grammaticaux de documents modèles. Il vise également à développer la créativité et à découvrir le plaisir d'écrire en français. Il est structuré de la même manière qu'au premier semestre.		1. Mise en bouche et jeu d'écriture 2. Voyager : découverte d'un texte, exercices de compréhension 3.Voyager2 : exercices de compréhension, suite 4.Voyager3 : écriture et partage 5. Trouver un travail1: découvertes de petites annonces, exercices de compréhension 6. Trouver un travail2 : exercices de compréhension, suite 7. Trouver un travail3 : écriture et partage 8. Conversations volées1: découverte d'un texte littéraire, exercices de compréhension 9. Conversations volées2: exercices de compréhension, suite 10. Conversation volées3 : écriture et partage 11. Les fêtes françaises1: découverte d'un texte, exercices de compréhension 12. Les fêtes françaises2: exercices de compréhension, suite 13. Les fêtes françaises3 : écriture et partage 14. Épilogue 15. Test	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pour le déroulement harmonieux du cours, les exercices de compréhension des documents modèles doivent impérativement être préparés à la maison. Des exercices de préparation à la composition et certaines compositions devront également être réalisés à la maison à la demande du professeur.		
テキスト、参考文献	Textes distribués en classe Apporter des dictionnaires (bilingue et monolingue)		
評価方法	Contrôle continu (70%). La présence est incluse dans le contrôle continu. <u>Plus de 3 absences non justifiées entraînent l'exclusion du cours.</u> Un test à la fin du trimestre (30%)		

08 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est de fournir les compétences nécessaires pour décrire son environnement personnel. Il donnera la capacité de communiquer dans les situations de la vie quotidienne, lors d'un séjour en France par exemple. Par ailleurs, les objectifs d'écriture visés se réfèrent aux descriptifs du Cadre Européen Commun de Référence. Ce cours prépare donc aussi à la production écrite du niveau B1 du DELF. Le déroulement de ce cours se compose de quatre étapes : découverte et analyse de documents écrits relatifs au thème traité, pratique indépendante et/ou collective, pratique personnelle renforcée (devoirs) et petit test.		1. Se présenter dans une lettre 1 2. Se présenter dans une lettre 2 3. Se présenter dans une lettre 3 4. Ecrire la biographie de quelqu'un 1 5. Ecrire la biographie de quelqu'un 2 6. Ecrire la biographie de quelqu'un 3 7. Ecrire une lettre amicale 1 8. Ecrire une lettre amicale 2 9. Ecrire une lettre amicale 3 10. Caractériser un lieu 1 11. Caractériser un lieu 2 12. Conseiller un ami qui vient au Japon 1 13. Conseiller un ami qui vient au Japon 2 14. Exprimer ses impressions et ses sentiments 1 15. Exprimer ses impressions et ses sentiments 2	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト、参考文献	Documents distribués en classe. Apporter son dictionnaire.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

08 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours poursuit les objectifs du premier semestre. Nous verrons en outre des thèmes plus détaillés et liés à la vie professionnelle. Nous aborderons aussi des techniques plus orientées vers le niveau B2. Le déroulement sera le même qu'au premier semestre.		1. Ecrire son opinion 1 2. Ecrire son opinion 2 3. Ecrire son opinion 3 4. Décrire un livre, un film 1 5. Décrire un livre, un film 2 6. Décrire un livre, un film 3 7. Ecrire son curriculum vitae 1 8. Ecrire son curriculum vitae 2 9. Ecrire son curriculum vitae 3 10. Ecrire une lettre de motivation 1 11. Ecrire une lettre de motivation 2 12. Ecrire une lettre de motivation 3 13. Ecrire une lettre de plainte 1 14. Ecrire une lettre de plainte 2 15. Ecrire une lettre de plainte 3	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト、参考文献	Documents distribués en classe. Apporter son dictionnaire.		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

08 年度以降	フランス語会話 I	担当者	L. フォンテーヌ
講義目的、講義概要		授業計画	
Etre capable de tenir une conversation quotidienne en francais. C'est-a-dire comprendre l'autre et repondre adequatement. Pour cela, il faut faire des exercices d'ecoute et acquerir du vocabulaire. Ce que nous pratiquerons chaque semaine.		1. Parler du futur. La recherche d'emploi 2. Outils grammaticaux et vocabulaire. 3. Comprehension orale. 4. Production orale. 5. Theme de la carriere. Les qualites professionnelles 6. Outils grammaticaux et vocabulaire. 7. Comprehension orale. 8. Production orale. 9. Parler du passe. Raconter des faits. 10. Outils grammaticaux et vocabulaire. 11. Comprehension orale. 12. Production orale. 13. Parler du passe pour raconter la vie des gens. 14. Outils pour decrire. Production orale. 15. Bilan.	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation ecrite des exercices d'expression orale. Assimilation du nouveau vocabulaire.		
テキスト、参考文献	Competences B1, Comprehension orale, niveau 2, Cle international, 2005		
評価方法	Les etudiants seront notes selon leurs devoirs et leur participation en classe.		

08 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	L. フォンテーヌ
講義目的、講義概要		授業計画	
C'est un cours pour savoir echanger en francais dans la vie quotidienne. Des exercices sont prevus pour ameliorer sa comprehension auditive, acquerir du vocabulaire et s'exprimer.		1. Parler de ses loisirs. 2. Pratiquer l'enchainement logique,exprimer la consequence. 3. Comprehension et production orales. 4. Apprendre a nuancer, a conseiller, a faire des hypotheses 5. Comprehension e production orales. 6. Parler des activites culturelles. 7. Plus-que-parfait, pronoms relatifs et demonstratifs 8. Theme de la famille et des amis. 9. Expression de l'obligation et de l'interdiction. 10. Parler des intentions, des sentiments, des gouts. 11. Comprehension et production orales. 12. Parler de la societe. 13. Acquisition d'outils grammaticau et de vocabulaire. 14. Comprehension et production orales. 15. Bilan	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation ecrite des exercices de production orale.		
テキスト、参考文献	Competences B1, Comprehension orale, niveau 2, Cle international, 2005		
評価方法	Les etudiants seront notes selon leurs devoirs et leur participation aux cours.+		

08 年度以降	フランス語会話 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Présentation du cours 2. La musique (1) 3. La musique (2) 4. La musique (3) 5. La chanson (1) 6. La chanson (2) 7. Le cinéma (1) 8. Le cinéma (2) 9. Le français qui bouge (1) 10. Le français qui bouge (2) 11. Les médias (1) 12. Les médias (2) 13. Les loisirs 14. Partir en vacances (1) 15. Partir en vacances (2)	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des documents en relation avec le sujet de conversation traité en cours.		
テキスト、参考文献	Photocopies		
評価方法	Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus activement possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.		

08 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Mise en train/Présentation du cours 2. Le logement (1) 3. Le logement (2) 4. La maison 5. Les repas (1) 6. Les repas (2) 7. Qui fait la cuisine à la maison ? 8. Qui fait les courses ? Où ? Comment ? (1) 9. Qui fait les courses ? Où ? Comment ? (2) 10. Nourrir toute la planète 11. L'école de mes enfants 12. Apprendre. Comment ? (1) 13. Apprendre. Comment ? (2) 14. Pourquoi parler plusieurs langues étrangères ? 15. Bilan	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des documents en relation avec le sujet de conversation traité en cours.		
テキスト、参考文献	Photocopies		
評価方法	Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus activement possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.		

08 年度以降	フランス語会話 I	担当者	F. X. レット
講義目的、講義概要		授業計画	
Le cours de conversation en français aborde des thèmes variés. Tout le monde pourra s'exprimer à voix haute, donner son avis et partager ses expériences. Nous utiliserons des documents authentiques : vidéo, chanson, photo, carte, carte postale, etc. Il faudra préparer à la maison une courte présentation ou un dialogue. Il faudra aussi apprendre le vocabulaire. Bon courage !		1. Les difficultés du français 2. Se promener à Paris 3. Se promener à Paris 4. Le cinéma 5. Le cinéma 6. La cuisine 7. La cuisine 8. La Bande Dessinée 9. La Bande Dessinée 10. Les chansons françaises 11. Les chansons françaises 12. Le sport 13. Le sport 14. Internet 15. Révisions	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire		
テキスト、参考文献	Photocopies		
評価方法	Contrôle continu, participation active, prononciation, devoirs, présentations, assiduité		

08 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	F. X. レット
講義目的、講義概要		授業計画	
Le cours de conversation en français aborde des thèmes variés. Tout le monde pourra s'exprimer à voix haute, donner son avis et partager ses expériences. Nous utiliserons des documents authentiques : vidéo, chanson, photo, carte, carte postale, etc. Il faudra préparer à la maison une courte présentation ou un dialogue. Il faudra aussi apprendre le vocabulaire. Bon courage !		1. Les vacances 2. Le travail 3. Se promener en France 4. Se promener en France 5. La mode 6. La mode 7. Les arts plastiques 8. Les arts plastiques 9. La télévision 10. Les romans 11. La politique 12. Histoire de France 13. Histoire de France 14. La photo 15. Révisions	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire		
テキスト、参考文献	Photocopies		
評価方法	Contrôle continu, participation active, prononciation, devoirs, présentations, assiduité		

08 年度以降	フランス語会話 I	担当者	B. ピケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours de conversation aura pour objectif principal d'aider les étudiants à s'exprimer à l'oral avec plus d'aisance. Nous travaillerons principalement à partir de situations de la vie courante en France. Par exemple : faire une réservation, s'inscrire à l'université ou passer un entretien d'embauche. Un autre objectif du cours sera, toutes les quatre semaines, d'aider les étudiants à exprimer leur point de vue de façon naturelle et convaincante, et à défendre ce point de vue. Le manuel nous servira de base de travail. Il pourra être complété par des documents préparés par le professeur et distribués en début de cours.		1. Présentation du cours 2. Sortir avec des amis 3. Inviter et être invité 4. Entraînement à la discussion 5. Présenter une personne 6. Présenter un lieu ou un objet 7. Demander des informations 8. Entraînement à la discussion 9. Faire ses courses 10. Parler de ses goûts 11. Exprimer ses sentiments 12. Entraînement à la discussion 13. Révision 14. Révision 15. Préparation à l'examen	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pas de préparation particulière avant le cours. Après le cours : révision du cours et devoirs à la maison.		
テキスト、参考文献	100% FLE Guide de communication en français Auteurs : Jean-Jacques Mabilat, Cidalia Martins - éditions Didier		
評価方法	30% participation en classe, 20% devoirs à la maison, 50% examen final		

08 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	B. ピケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours de conversation aura pour objectif principal d'aider les étudiants à s'exprimer à l'oral avec plus d'aisance. Nous travaillerons principalement à partir de situations de la vie courante en France. Par exemple : faire une réservation, s'inscrire à l'université ou passer un entretien d'embauche. Un autre objectif du cours sera, toutes les quatre semaines, d'aider les étudiants à exprimer leur point de vue de façon naturelle et convaincante, et à défendre ce point de vue. Le manuel nous servira de base de travail. Il pourra être complété par des documents préparés par le professeur et distribués en début de cours.		1. Présentation du cours 2. Parler de ses projets 3. Au restaurant, à l'hôtel 4. Entraînement à la discussion 5. Français professionnel : participer à une réunion 6. Français professionnel : au téléphone 7. Français professionnel : rendez-vous avec un client 8. Entraînement à la discussion 9. Chercher un travail 10. Parler de ses études 11. Parler de son expérience professionnelle 12. Entraînement à la discussion 13. Révision 14. Révision 15. Préparation à l'examen	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Pas de préparation particulière avant le cours. Après le cours : révision du cours et devoirs à la maison.		
テキスト、参考文献	100% FLE Guide de communication en français Auteurs : Jean-Jacques Mabilat, Cidalia Martins - éditions Didier		
評価方法	30% participation en classe, 20% devoirs à la maison, 50% examen final		

08 年度以降	ビジネスフランス語 I	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を春学期で扱います。（変更あり） Thèmes étudiés : 1. Introduction au cours / Programme 2. La formation 3. Les diplômes 4. Exploitation / Evaluation 5. Rechercher un emploi 6. Candidature 7. CV 8. Exploitation / Evaluation 9. Les pratiques de recrutement 10. Lettre de motivation 11. Entretien d'embauche 12. Exploitation / Evaluation 13. Les contrats de travail 14. Professions et métiers 15. Exploitation / Evaluation	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%		

08 年度以降	ビジネスフランス語Ⅱ	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を秋学期で扱います。（変更あり） Thèmes étudiés : 1. Introduction au cours / Programme 2. Organiser un déplacement 3. Réserver une chambre d'hôtel 4. Réserver un billet d'avion / de train 5. Exploitation / Evaluation 6. Organiser son emploi du temps 7. Prendre contact par téléphone 8. Courrier et courriel 9. Exploitation / Evaluation 10. Passer commande 11. Importer et exporter 12. Exploitation / Evaluation 13. Découvrez l'entreprise 14. Fonctions dans l'entreprise 15. Exploitation / Evaluation	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%		

08 年度以降	上級フランス語 I	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。 初回の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいてください。この授業は、TCF310点程度以上を取得した学生を対象としています。 2016年のニュースを予測することは不可能ですので、右欄では2015年春に扱ったニュースを紹介します。		1. モンサンミッシェルで世紀の大潮 2. チュニジアでテロ 日本人も犠牲に 3. 復活祭の卵さがし 4. 5月1日はすずらんを贈る 5. ネパール地震でフランスの人道援助活動 6. モナコ王室の双子の赤ちゃん 洗礼式へ 7. カヌ映画祭 8. エッフェル塔の観光客をねらう詐欺行為 9. テニス全仏オープン 10. サッカーFIFA の不正 11. ワーテルローの戦い二百周年 12. ギリシャの経済危機 ユーロ離脱か？ 13. 自転車競技ツールドフランス 14. 7月14日のパレード 15. カナダのフランス語	
到達目標	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト、参考文献	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

08 年度以降	上級フランス語Ⅱ	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。 初回の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいてください。この授業は、TCF310点程度以上を取得した学生を対象としています。 2016 年のニュースを予測することは不可能ですので、右欄では 2015 年秋に扱ったニュースを紹介します。		1. 欧州に押し寄せる難民 2. フォルクスワーゲン社の不正 3. ラグビー世界大会で日本が南アフリカをやぶる 4. エールフランス社の幹部が労働組合員に襲われる 5. ペタンクをオリンピック競技に 6. アステリクスの新号が発売される 7. ルーブル美術館の地下 8. フランスで大規模なテロ 9. ボージョレーヌーボー解禁 10. トリュフ市始まる 11. 心のレストランの冬のキャンペーン 12. マルシェドノエル クリスマス・マーケット 13. 地域圏議会選挙で極右の国民戦線が躍進 14. マリのホテルでテロ事件 15. ガレット・デ・ロワ	
到達目標	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト、参考文献	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

08 年度以降	フランス語学論 I	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去 2 年間の講義内容とは異なるものとなる。 受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。受講予定者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻 2 回で欠席 1 回とする）。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。		第 1 回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明、フランス語学とはなにか 第 2 回～第 15 回までで、以下のテーマを論じる。 ・比較構文とは何か、最上級と接続法 ・所有形容詞とは何か、定冠詞とはどう違うのか ・過去分詞の一致はなぜ起こるのか ・代名動詞の助動詞はなぜ être なのか ・助動詞の選択はどのように行われるのか ・接続法とは何か ・être はなぜ不規則な活用をするのか ・単純未来形とはなにか ・非人称構文は何のためにあるのか ・il / elle と「彼」「彼女」は同じか ・男性を紹介するのになぜ il est Paul と言えないのか ・形容詞の第 2 形は何か ・強調構文とは何か など。	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。原則として卒業再試験は行わない。		

08 年度以降	フランス語学論Ⅱ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去２年間の講義内容とは異なるものとなる。 受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。受講予定者は必ず第１回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻２回で欠席１回とする）。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。		春学期の続き。上記のようなテーマを第１回～第１５回で論じる。ただし、秋学期からでも受講できるように、内容的には工夫する。また、受講生からの要望にもできるだけ応える内容とする。	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。原則として卒業再試験は行わない。		

08 年度以降	フランス語文章理論Ⅰ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ フランス語を書いたり、話したりしていると、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業では「フランス語を発信する」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目をとりあげます。 「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。 授業の概要 1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、簡単な文でもほぼ必ず出てくるが初級文法ではまとまって取り上げられない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞をとりあげる。		第1回：ガイダンス 第2回：冠詞に関する練習 1 第3回：冠詞に関する練習 2 第4回：冠詞に関する練習 3 第5回：être + 冠詞 第6回：一般的なことを表す冠詞 1 第7回：一般的なことを表す冠詞 2 第8回：部分冠詞 1 第9回：部分冠詞 2 第10回：部分冠詞 3 第11回：身体の一部を表す名詞と限定詞 1 第12回：身体の一部を表す名詞と限定詞 2 第13回：冠詞練習問題1 第14回：冠詞練習問題2 第15回：冠詞練習問題3	
到達目標	フランス語の細かい文法知識、文章理論を習得し、状況に応じた文章作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に練習問題をやってくる。テキストの未知の単語は全て調べてくること。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	試験		

08 年度以降	フランス語文章理論Ⅱ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		第1回： ガイダンス 第2回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1 第3回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 2 第4回：場所を表す前置詞 1 第5回：場所を表す前置詞 2 第6回：場所を表す前置詞 3 第7回：場所を表す前置詞 4 第8回：手段を表す前置詞 1 第9回：手段を表す前置詞 2 第10回：手段を表す前置詞 3 第11回：être de 名詞 1 第12回：être de 名詞 2 第13回：動詞＋前置詞 1 第14回：動詞＋前置詞 2 第15回：動詞＋前置詞 2	
到達目標	フランス語の細かい文法知識、文章理論を習得し、状況に応じた文章作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に練習問題をやってくる。テキストの未知の単語は全て調べてくること。		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	試験		

08 年度以降	フランス言語語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に外国語教育について学習する。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法について考えることを目的とする。 <講義概要> 今学期はさまざまな教材をテーマとする。外国語学習で使われる教科書やそれ以外のものについて考える。毎回、授業のはじめに Compréhension orale (聴解) の練習を入れる。 授業は、講義の他、個人作業やグループ作業で進めるので、履修者は欠席や遅刻をしないように！ ★ <u>この授業を履修する学生は必ず1回目の授業から出席してください。</u>		1. Introduction 2. 教科書について 1 3. 教科書について 2 4. 教科書について 3 5. 教科書について 4 6. 教材について (種類と使用法) 1 7. 教材について (種類と使用法) 2 8. 教材について (種類と使用法) 3 9. 教材について (種類と使用法) 4 10. 教材をつくる (注意点と準備) 1 11. 教材をつくる (注意点と準備) 2 12. その教材を使う 1 13. その教材を使う 2 14. その教材を使う 3 15. まとめ (内容と扱う項目は授業進行状況により変更する。)	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランス語や英語などの外国語の教科書を概観する。自分の外国語学習 (あるテーマを決めて) に合った教材作成を通して、自分自身のより良い学習方法を探る。		
テキスト、参考文献	プリント。必要に応じて授業で指示する。		
評価方法	課題・授業参加態度・個別 / グループ作業と発表など (20%)、定期試験(80%)。		

08 年度以降	フランス言語語教育論Ⅱ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に外国語教育について学習する。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法について考えることを目的とする。 <講義概要> 今学期は Documents authentiques をテーマとする。Documents authentiques について何をどのように活用できるのかを作業を通して考える。毎回、授業のはじめに Compréhension orale (聴解) の練習を入れる。 授業は、講義の他、グループ作業などで進めるので、履修者は欠席や遅刻をしないように！ ★ <u>この授業を履修する学生は必ず1回目の授業から出席してください。</u>		1. Introduction 2. Documents authentiques について 1 3. Documents authentiques について 2 4. Documents authentiques について 3 5. Documents authentiques について 4 6. Documents authentiques の種類と活用法 1 7. Documents authentiques の種類と活用法 2 8. Documents authentiques と練習（作成）1 9. Documents authentiques と練習（作成）2 10. Documents authentiques と練習（作成）3 11. Documents authentiques 使った activité 1 12. Documents authentiques 使った activité 2 13. Documents authentiques 使った activité 3 14. Documents authentiques 使った activité 4 15. まとめ (内容と扱う項目は授業進行状況により変更する。)	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	自分自身のこれまでの外国語学習について総括し、授業を通して自分自身の外国語学習法の問題点や今後の課題を明らかにする。そして、題材を使いこなす工夫を通して、その実践について考える。		
テキスト、参考文献	プリント。必要に応じて授業で指示する。		
評価方法	課題・授業参加態度・個別 / グループ作業と発表など (20%)、定期試験(80%)。		

13 年度以降	マスメディアのフランス語 I	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 ここまでで学んできたフランス語の能力を土台として、さまざまな（マス）メディアで扱われるフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけではなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。 【講義概要】 春学期は、「日本」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、「日本」に関してどのような情報やイメージを伝えようとしてきたのかを検討します。グローバル化した最新のメディアから始め、徐々に時間を遡っていく形式をとります。 ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。		1. イントロダクション 2. インターネット 3. テレビとラジオ 4. 漫画（バンド・デシネ） 5. 新聞（20 世紀） 6. 学術書 7. 映画 8. 小説と旅行記（20 世紀） 9. 外交文書 10. 旅行記（19 世紀） 11. 新聞と雑誌（19 世紀） 12. 百科全書（18 世紀） 13. 旅行記（17 世紀） 14. 宣教師の記録（16 世紀） 15. まとめ	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている日本の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト、参考文献	授業の際に配布、指示をします。特定の教科書は使用しません。		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

13 年度以降	マスメディアのフランス語Ⅱ	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 ここまでで学んできたフランス語の能力を土台として、さまざまな（マス）メディアで扱われるフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけでなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。 【講義概要】 秋学期は、「食」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、フランスが自らの食文化に関してどのような情報やイメージを伝えようとしてきたのかを検討します。徐々に時間を遡っていく形式をとり、とりわけ後半では、「食」ならではのメディアを読み解きます。 ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります。		1. イントロダクション 2. インターネット 3. 外交文書 4. テレビとラジオ 5. 漫画（バンド・デシネ） 6. 映画 7. 新聞 8. レシピとメニュー 9. 雑誌と広告 10. レストラン・ガイド 11. 美食論（19 世紀） 12. 百科全書（18 世紀） 13. エチケツ集（18 世紀） 14. 料理本（17 世紀） 15. まとめ	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている食の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト、参考文献	授業の際に配布、指示をします。特定の教科書は使用しません。		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション各論 I	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではフランス語でのコミュニケーションについて学びます。フランス語でやりとりをするということはどのような特徴をもっているのか。具体的な例をとりあげながら理解を深めていきます。コミュニケーションは一方的な情報伝達ではなく、たえまない他者との対話、交渉を含んでいます。フランス語にはどのような対話の技術、交渉術があるのかを学んでいきます。 また自分自身と社会と将来を結ぶ問題を各自が見出すためのグループ議論を行い、フランス語で発表するスキルを身につけていきます。		1. コミュニケーションとは何か。(総論) 2. フランス語の言語位相 3. フランス語コミュニケーションの特徴 (語彙) 4. フランス語コミュニケーションの特徴 (構文) 5. フランス語コミュニケーションの特徴 (文接続) 6. フランス語の日常会話 (話題の設定) 7. フランス語の日常会話 (会話の文法) 8. フランス語の対話技術 9. フランス語での交渉技術 10. フランス語での議論 (問題提起の仕方) 11. フランス語での議論 (主張の展開) 12. フランス語での議論 (反論と合意形成の仕方) 13. フランス語でのプレゼンテーション 14. フランス語でのプレゼンテーション 15. 講義のまとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各授業ごとに配布するテキストを読み、事後は自己の考えを発展させるために作文をする。		
テキスト、参考文献	青木三郎『ことばのエクササイズ』 ひつじ書房		
評価方法	(1) 平常授業の参加度 (質問・議論) 35% (2) 課題に関する準備度 25% (3) 筆記試験 40%		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、引き続きフランス語のコミュニケーションについての理解が深まるように様々なポイントに注目して論じていきます。特に後期は、フランス語における交渉のスキルについて概観し、具体的な例をとりあげながら検討していきます。外交・国際機関における合意形成のプロセス、ビジネス上の交渉プロセス、文化交流における異文化間対話など、様々な現代的課題をとりあげ、教室で議論しながら、フランス語での表現の仕方を学んでいく予定です。		1. 交渉とは何か。(総論) 2. フランス語の交渉場面の諸相Ⅰ 3. フランス語の交渉場面の諸相Ⅱ 4. フランス語の交渉と社会背景 5. フランス語の交渉 (外交・国際機関) 6. フランス語の交渉 (外交・国際機関) 7. フランス語の交渉 (ビジネスの現場) 8. フランス語の交渉 (ビジネスの現場) 9. フランス語の交渉 (社会活動) 10. フランス語の交渉 (社会生活) 11. フランス語の交渉 (文化活動) 12. フランス語の交渉 (文化活動) 13. フランス語での交渉のロールプレー 14. フランス語での交渉のロールプレー 15. まとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各授業ごとに配布するテキストを読み、事後は自己の考えを発展させるために作文をする。		
テキスト、参考文献	日仏経済交流会編『フランス人の流儀』大修館書店		
評価方法	(1) 平常授業の参加度 (質問・議論) 35% (2) 課題に関する準備度 25% (3) 筆記試験 40%		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>But du cours</u> : Pouvoir lire et comprendre des textes d'actualité de nature politique, sociologique ou économique. <u>Contenu</u> : lecture d'articles de journaux, écrits ou publiés sur le web, ayant rapport à la francophonie, à la France d'outre-mer et surtout aux sociétés de l'océan Pacifique sud. <u>Méthode</u> : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte. <u>Pas de traduction.</u>		1. Présentation 2-6. Lecture du 1^{er} article selon la méthode exposée ci-contre (6. petit test de vocabulaire) 7-10. Lecture du 2^e article selon la méthode exposée ci-contre (10. petit test de vocabulaire) 11-15. Lecture du 3e article selon la méthode exposé ci-contre	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire, répondre aux questions, recherche sur internet ou autres moyens sur le thème évoqué par l'article en cours de lecture.		
テキスト、参考文献	Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le Larousse de poche 2016.		
評価方法	Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir les explications données ci-dessus pour le premier semestre.		1. Présentation 2-6. Lecture du 1 ^{er} article selon la méthode exposée ci-contre (6. petit test de vocabulaire) 7-10 Lecture du 2 ^e article selon la méthode exposée ci-contre (10. petit test de vocabulaire) 11-15 Lecture du 3e article selon la méthode exposé ci-contre	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire, répondre aux questions, recherche sur internet ou autres moyens sur le thème évoqué par l'article en cours de lecture.		
テキスト、参考文献	Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le Larousse de poche 2016.		
評価方法	Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
社会現象・政治経済・時事問題に関する文章に慣れるのが目的です。 上記ジャンルのさまざまなテーマの文章を読み、動詞の法と時制、構文、語彙といった文法知識を確認しながら、文脈の明確な把握を通して書き手の意図を正確に受けとめる批判的読解力（リテラシー）の養成を目指します。 受講人数にもよりますが、グループに分け、①ネット検索による事項の調査、②訳、③文法問題、④テーマに関する意見発表を適宜課します。		1-3. プリント① （時事問題を扱う完結した文章をプリントとして配布。以下同様） 4-5. プリント② 6-7. プリント③ 8-9. プリント④ 10-11. プリント⑤ 12-13. プリント⑥ 14. まとめと質問 15. 試験と解説 初回を除き、奇数回には訳読のほか文法問題を課します。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	語学は事前学修が重要です。毎回辞書を引いて、テキストの意味を自分でしっかり考える習慣をつけましょう。分からなかったところ、誤解したところをきちんと見直し、理解するのが事後学修になります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献、サイトは授業中適宜紹介します。		
評価方法	授業参加態度 30%+授業内発表 20%試験 50% 参加態度の項目は文法問題への取り組み、発表の項目は検索調査と訳の達成度を見ます。 試験は、辞書のみ持ち込み可の初見テキストの訳と、学んだ文法問題を出題する予定。		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
多種多様なジャンル、スタイルの文章に慣れるのが目的です。 詩歌から料理のレシピまで、多種多様なテキストを読み、文法知識を確認しながら、あらゆる種類のフランス語書き言葉に柔軟に対応しうる読解力の養成を目指します。 受講人数にもよりますが、グループに分け、①ネット検索による事項の調査、②訳、③テーマに関する意見発表を適宜課します。		1-2. シャンソン：民謡あるいは「みんなの歌」的なジャンルの歌と、プロ歌手の持ち歌 3-4. 詩歌：ボードレールその他。シャンソンと合わせ、句読法など詩歌の表記に慣れる。 5-6. 絵本：未定。幼い読者ととらえる作者の工夫を読み解く。 7-8. 物語：Le Petit Prince のある 1 章。直説法単純過去に慣れる。 9-10. 戯曲：アガタ・クリストフの一部。シナリオ・リーディング形式で教室内上演を目指す。 11-12. シナリオ：2、3 のシーンのシナリオを厳密に読み、字幕の限界を知る。 13-14. レシピ：faire, laisser の使用、計量単位の違いなど、特有の表現に慣れる。 15. 文体の特徴についてのまとめと質疑応答	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	語学は事前学修が重要です。毎回辞書を引いて、テキストの意味を自分でしっかり考える習慣をつけましょう。分からなかったところ、誤解したところをきちんと見直し、理解するのが事後学修になります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献、CD、DVD、サイトなどは授業中適宜紹介します。		
評価方法	授業参加態度 30%+授業内発表 20%+定期試験 50% 参加態度と発表の項目は検索調査と訳の達成度を見ます。 定期試験は、辞書のみ持ち込み可の初見テキストの訳を中心に出題する予定。		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1作品を読んでいくというような形ではない）。仏検2級・1級程度の文章を扱う。 その他：毎回ランダムに<u>全員</u>を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回～第15回：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定、虚辞の ne）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。 なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。原則として卒業再試験は行わない。		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1作品を読んでいくというような形ではない）。仏検2級・1級程度の文章を扱う。 その他：毎回ランダムに<u>全員</u>を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。		第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回～第15回：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定、虚辞のne）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。 なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト、参考文献	プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		
評価方法	毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。原則として卒業再試験は行わない。		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業は「外国語としてのフランス語教育」をテーマとし、様々なテキストを通してフランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的としている。 <講義概要> 今学期は「日本におけるフランス語教育」について書かれたものを読みながら様々な角度から現状や問題点について考える。毎回、授業のはじめにシャドーイング練習を取り入れる（読むテキストとは別）。 随時、グループ作業やグループ発表も取り入れるので欠席しないこと。<u>履修する学生は必ず 1 回目の授業から参加すること。</u>		1. Introduction 2. 第二外国語としてのフランス語教育 1 3. 第二外国語としてのフランス語教育 2 4. 第二外国語としてのフランス語教育 3 5. 第二外国語としてのフランス語教育 4 6. まとめ 7. 日本におけるフランス語教育 1 8. 日本におけるフランス語教育 2 9. 日本におけるフランス語教育 3 10. 日本におけるフランス語教育 4 11. まとめ 12. フランス語の授業 1 13. フランス語の授業 2 14. フランス語の授業 3 15. まとめ (授業進度によって変更する可能性がある。)	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの音読練習と、大まかな理解ができるくらいに内容を読み取っておく。 Questions シートを手がかりにして、内容についてまとめる。		
テキスト、参考文献	プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	授業参加態度・課題(予習等を含む)・個別作業 / グループワークと発表など (20%)、 定期試験 (80%)。		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業は、「外国語としてのフランス語教育」をテーマに、様々なテキストを通してフランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的としている。 <講義概要> 今学期は様々な教材について書かれたものを通して、特にDocuments authentiques を題材にしたものを中心に読みながら教材について考える。毎回、授業の初めにシャドーイング練習を取り入れる（読むテキストとは別）。随時、グループ作業やグループ発表も取り入れるので欠席しないこと。履修する学生は必ず<u>一回目の授業から</u>参加すること。		1. Introduction 2. フランス語のテキストについて 1 3. フランス語のテキストについて 2 4. フランス語のテキストについて 3 5. フランス語のテキストについて 4 6. 教材について 1 7. 教材について 2 8. まとめ 9. Documents authentiques について 1 10. Documents authentiques について 2 11. Documents authentiques について 3 12. Documents authentiques について 4 13. Documents authentiques について 5 14. Documents authentiques について 6 15. まとめ （授業進度によって変更する可能性がある。）	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの音読練習と、大まかな理解ができるくらいに内容を読み取っておく。 Questions シートを手がかりにして、内容についてまとめる。		
テキスト、参考文献	プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	授業参加態度・課題(予習等を含む)・個別作業 / グループワークと発表など (20%)、 定期試験 (80%)。		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ この授業ではフランス語で「読む喜び」を感じるために、フランスを舞台にしたサマセット・モームのいくつかの短編小説を読みます。ユーモアと皮肉、人間にたいする鋭い観察眼が混じった、笑える小説を取り上げました。じっくり読みながら、文法の再確認、語彙・表現の習得、ヨーロッパ文化についての学習を目指します。		第 1 回：ガイドダンス 第 2 回：les trois grosses dames d' Antibe 1 第 3 回：les trois grosses dames d' Antibe 2 第 4 回：les trois grosses dames d' Antibe 3 第 5 回：les trois grosses dames d' Antibe 4 第 6 回：les trois grosses dames d' Antibe 5 第 7 回：les trois grosses dames d' Antibe 6 第 8 回：les trois grosses dames d' Antibe 7 第 9 回：la leçon des choses 1 第 10 回：la leçon des choses 2 第 11 回：la leçon des choses 3 第 12 回：la leçon des choses 4 第 13 回：la leçon des choses 5 第 14 回：la leçon des choses 6 第 15 回：la leçon des choses 7	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業にやる分のテキストの単語の意味・文の意味の理解は予習しておくこと		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	試験		

08 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです。		第 1 回：ガイドダンス 第 2 回：le déjeuner 1 第 3 回：le déjeuner 2 第 4 回：le déjeuner 3 第 5 回：le déjeuner 4 第 6 回：la cigale et la fourmi 1 第 7 回：la cigale et la fourmi 2 第 8 回：la cigale et la fourmi 3 第 9 回：la cigale et la fourmi 4 第 10 回：la cigale et la fourmi 5 第 11 回：apparence et réalité 1 第 12 回：apparence et réalité 2 第 13 回：apparence et réalité 3 第 14 回：apparence et réalité 4 第 15 回：apparence et réalité	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業にやる分のテキストの単語の意味・文の意味の理解は予習しておくこと		
テキスト、参考文献	プリント		
評価方法	試験		

08 年度以降	フランスの美術 I	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 17 世紀から 19 世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. ニコラ・プッサン (1594-1665) 3. シモン・ヴーエ (1590-1649) 4. ジョルジュ・ド・ラトゥール(1593-1652) 5. フランソワ・ブーシェ (1703-1770) 6. ジャン=シメオン・シャルダン (1699-1779) 7. ジャック=ルイ・ダヴィッド (1748-1825) 8. ジャン=ドミニク・アングル (1780-1867) 9. ユジェーヌ・ドラクロワ (1798-1863) 10. ジャン=フランソワ・ミレー (1814-1875) 11. エドゥアール・マネ (1832-1883) 12. 印象派 1 13. 印象派 2 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	時代的背景を捉えながら、代表的な芸術家や作品など、フランスの美術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。画集などで作品に親しむ。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。		
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー、 美術館見学レポート、学期末試験		

08 年度以降	フランスの音楽 I	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
19世紀のロマン派の器楽に焦点を当てます。時代精神とともに変わる芸術表現の変遷や、国民性による感覚の違いを学びます。 19世紀には、18世紀後半の古典派の時代に比べると自由度と色彩感が増すロマン派がドイツにあらわれます。その様子を主にピアノ曲と管弦楽曲において見ていきます。そのあと19世紀後半にフランスに表われる様式と比較しながら時代や国民性の違いを実感できるようにしていきます。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。		1. 講義のガイダンス 2. ピアノ曲 1：シューベルト、シューマン 3. ピアノ曲 2：シューマン、ショパン 4. ピアノ曲 3：ショパン、ブラームス 5. 管弦楽曲 1：シューベルト、メンデルスゾーン 6. 管弦楽曲 2：シューマン、ブラームス 7. 管弦楽曲 3：ヨーロッパ周辺国 8. フランスのピアノ曲 1：フォーレ、ドビュッシー 9. フランスのピアノ曲 2：ドビュッシー 10. フランスのピアノ曲 3：ラヴェル 11. フランスの管弦楽曲 1：ショーンソン、ドビュッシー 12. フランスの管弦楽曲 2：ドビュッシー、デュカ 13. フランスの管弦楽曲 3：ラヴェル 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。		
評価方法	中間と期末の 2 回の試験の平均による。受験資格：3 分の 2 以上の出席。		

08 年度以降	フランスの音楽Ⅱ	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
19世紀後半にひとつの最盛期を迎えたフランス音楽が、表現が多様になる20世紀にはどのように変遷していくかを見ていきます。その際、他の国の代表的な傾向にも目配りし、比較しながらフランス音楽の特徴や国民性による表現の違いを学びます。 また価値の多様化の流れの中で、音楽とは何かという根本問題に取り組んだアメリカの作曲家ケージと、彼を批判した20世紀を代表するフランスの作曲家ブーレーズも採り上げ、学生自らが現代音楽を考えるきっかけをもつことが目的です。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。		1. 講義のガイダンス 2. シェーンベルク 1 3. シェーンベルク 2 4. ストラヴィンスキー1 5. ストラヴィンスキー2 6. サティと「六人組」 7. オネゲル 8. ミヨー 9. プーランク 10. メシアン 1 11. メシアン 2 12. ケージ 13. ブーレーズ 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。		
評価方法	中間と期末の2回の試験の平均による。受験資格：3分の2以上の出席。		

08 年度以降	フランスの舞台芸術Ⅰ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度は「オフエンバックと音楽における笑い」というテーマで授業を行います。 オフエンバックはドイツ生まれのユダヤ人ですが、後にフランスに帰化し、19 世紀の第二帝政期を代表するオペラ・ブッフア（喜劇オペラ）、オペレッタの作曲家となりました。オフエンバックの名前は知らなくとも、彼の曲は皆さんどこかで耳にしたことがあるはずです。 授業では、彼の創作した抱腹絶倒のオペラ・ブッフアを鑑賞しつつ、「音楽における笑いはいかにして可能になるか」という問題を追究します。受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 春学期授業概要の説明 2. オフエンバックの生い立ち 3. 第二帝政という時代 4. 第二帝政とパリのオフエンバック 5. 『地獄のオルフェ』（1） 6. 『地獄のオルフェ』（2） 7. 『地獄のオルフェ』（3） 8. 『美しきエレーヌ』（1） 9. 『美しきエレーヌ』（2） 10. 『美しきエレーヌ』（3） 11. 『パリの生活』（1） 12. 『パリの生活』（2） 13. 『パリの生活』（3） 14. オフエンバックにおける笑いの技法 15. まとめ	
到達目標	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配付された資料や参考文献に予め目を通しておくこと。詳細は授業時に指示する。		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		
評価方法	定期試験 100%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F 評価とする）		

08 年度以降	フランスの舞台芸術Ⅱ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、春学期の内容を踏まえて授業を行います。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。 秋学期の授業では、「オフエンバックにおける笑い」という問題意識のもとに、春学期に扱った作品の傾向を受け継ぐ『ジェロルスタン女大公殿下』の分析から始め、架空の南米国家で物語が展開される傑作『ペリコール』を経て、ついに笑いを捨ててたどり着いたオフエンバック最晩年の境地を具現化した幻想的、叙情的な作品『ホフマン物語』までを扱います。受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 秋学期授業概要の説明 2. 『ジェロルスタン女大公殿下』（1） 3. 『ジェロルスタン女大公殿下』（2） 4. 『ジェロルスタン女大公殿下』（3） 5. 『盗賊』（1） 6. 『盗賊』（2） 7. 『盗賊』（3） 8. 『ペリコール』（1） 9. 『ペリコール』（2） 10. 『ペリコール』（3） 11. 第二帝政の崩壊とオフエンバック 12. 『ホフマン物語』（1） 13. 『ホフマン物語』（2） 14. 『ホフマン物語』（3） 15. まとめ	
到達目標	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配付された資料や参考文献に予め目を通しておくこと。詳細は授業時に指示する。		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		
評価方法	定期試験 100%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F 評価とする）		

08 年度以降	フランス文学史 I	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この学期には、主として、19 世紀フランス文学史を学ぶ。19 世紀前半のフランスの文学・芸術の特徴は、ロマン主義が興隆していったことである。このことは、フランス革命や 7 月革命、2 月革命などによる社会の変化と切り離せない。参考文献として、ネルヴァルの詩作品、ボードレールの美術批評「ロマン主義とはなにか」などを読みながら、こうした点を考える。 さらに、19 世紀中期から後半にかけては、一方でフローベールのような優れた小説家が現れ、他方では、ボードレールを偉大な先駆者として、マラルメ、ランボーのような卓越した詩人たちが出現する。これらの作家や詩人たちの特徴を考察していきたい。少しずつ、進みたい。		1. 講義の概要 2. フランス革命（1789 年）とフランス近代社会 3. フランス革命とフランス・ロマン主義(1) 4. フランス革命とフランス・ロマン主義((2) 5. フランス・ロマン主義について(1) 6. フランス・ロマン主義について(2) 7. フランス・ロマン主義について(3) 8. フランス・ロマン主義について(4) 9. フランス・ロマン主義について(5) 10. ヴィクトル・ユゴーをめぐって(1) 11. ヴィクトル・ユゴーとその周辺(2) 12. ボードレールの詩作品 13. ボードレールの美術批評(1) 14. ボードレールの美術批評(2) 15. 講義のまとめ	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	プリントを用意する		
評価方法	期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。		

08 年度以降	フランス文学史 II	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この学期には、フランス文学史 I を引き継いで、19 世紀フランス文学史および 20 世紀フランス文学史を学ぶ。ネルヴァルの詩作品、ボードレールの詩作品や批評作品、さらにはランボーの詩作品、マラルメの「文学言語論」などを検討しながら、19 世紀後半の文学の状況を考える。 さらに、時間の許す限りで、20 世紀の文学を見る。20 世紀前半には、ブルーストの『失われた時を求めて』のような、芸術・文学を創作することの意味そのものを問う、優れた小説作品が書かれている。また、ブルトンたちによるシュルレアリスムの文学運動も現れた。参考文献を読みつつ、これらの文学の特徴を考えてみる。やや難しいところもあるので、少しずつ、丁寧に解説する。		1. ネルヴァルとドイツ・ロマン主義の影響(1) 2. ネルヴァルとドイツ・ロマン主義の影響(2) 3. ネルヴァルの小説作品 (1) 4. ネルヴァルの小説作品(2) 5. フローベールの小説作品(1) 6. フローベールの小説作品((2) 7. ランボーの詩作品(1) 8. ランボーの詩作品(2) 9. ランボーの「見者の手紙」について 10. マラルメの初期作品 11. マラルメの「詩の危機」について 12. ブルーストの小説作品について(1) 13. ブルーストの小説作品について(2) 14. ブルトンとシュルレアリスムについて 15. 講義のまとめ	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	プリントを用意する		
評価方法	期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。		

08 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅰ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
〈西欧の文化・思想の歩みを考える——プラトン主義からの転換としての現代思想・現代文学〉 哲学の誕生は、すなわち〈philo-sophia 知を愛すること〉の始まりは、死を見つめることと深い関係がある。哲学者とは、知を愛することを実践している者であるが、そういう愛知者は、「死に臨んで恐れず、むしろ希望を持っている」とソクラテスは言う。死は肉体から魂が離れることである。魂が肉体から離脱して、魂だけになることである。そして、「魂だけになること」は、怖れることどころか、愛知者がそう希望すること、そう願ひ、実現しようとするものなのだ。純粹になった魂——肉体から離れた精神であり、知性である心魂——のみが、事物や物事の精髓=本質を知ることができるのであり、そういう本質は永久に不変・不動なるもの、なんら変化・生成しないもの、すなわちイデアである。このような思想の歩みを、プラトン『パイドン』を読みつつ、検討する。丁寧に解説する。		1. 講義の進め方の解説 2. ソクラテスとプラトン 3. プラトンの三部作 4. プラトンの『パイドン』 5. 人間の、死との関わり方 (1) 6. 人間の、死との関わり方 (2) 7. 変化・生成するものと不変なもの (1) 8. 変化・生成するものと不変なもの (2) 9. 感覚によるものと知力によるもの (1) 10. 感覚によるものと知力によるもの (2) 11. 感覚によるものと知力によるもの (3) 12. 外観と本質 (1) 13. 外観と本質 (2) 14. イデアリズム (観念論=理想主義) (1) 15. まとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点の復習をしてください。		
テキスト、参考文献	プリントをこちらで用意する。参考書、プラトン『パイドン——魂の不死について』岩田訳、岩波文庫。		
評価方法	期末に講義内容についてのレポートを提出してもらうこと（100%）で評価する。		

08 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅱ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の講義を踏まえて、まずプラトン主義的な思想の伝統を考察する。前に述べたようなプラトン主義=イデア中心主義は、第一に、キリスト教の教えを支えており、さらにはデカルトやカントの思想の根本を構成している。 こうした伝統に異議を唱えた先駆者は、ニーチェである。 現代の思想は、ニーチェの試みを受け継いで、もっと別のやり方で人間存在を理解しようとしており、また、時間の理解の仕方を変えようとしている。 ここでは、バタイユの『宗教の理論』を考えてみたい。また、ドゥルーズの『差異と反復』において問われていることの要点を考察し、さらにプルーストの文学作品における非意志的な記憶=想起の問題を考察してみたいと思う。		1. プラトンのイデア中心主義について (1) 2. プラトンのイデア中心主義について (2) 3. キリスト教の教え (1) 4. キリスト教の教え (2) 5. キリスト教の教え (3) 6. ニーチェによるキリスト教批判 (1) 7. ニーチェによるキリスト教批判 (2) 8. ニーチェによるキリスト教批判 (3) 9. バタイユの『宗教の理論』について (1) 10. バタイユの『宗教の理論』について (2) 11. ドゥルーズの『差異と反復』について (1) 12. ドゥルーズの『差異と反復』について (2) 13. プルーストの『失われた時を求めて』 (1) 14. プルーストの『失われた時を求めて』 (2) 15. まとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点の復習をしてください。		
テキスト、参考文献	プリントをこちらで用意する。参考書、バタイユ『宗教の理論』湯浅訳、ちくま学芸文庫。		
評価方法	期末に講義内容についてのレポートを提出してもらうこと（100%）で評価する。		

08 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅰ	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
中央集権国家の名残ゆえに、フランスの芸術文化はパリに一極集中しているイメージで捉えられがちです。しかし、フランス文化の多様性は、フランス本国、さらには世界に広がるフランス語圏の文化の魅力的な混合によって育まれてきたものです。 講義では、パリ以外の地方都市、さらには海を越えた海外県、海外領土へも眼を向け、そこにはどんな文化が息づいているのかを、その地方から生まれた絵画や文学、独自の風俗を通して学びます。古来より独自の言語文化を形成してきた南仏、印象派のインスピレーションの源となったブルターニュ、ガストロノミーの都市リヨン、ドイツに隣接するアルザス、さらには海に浮かぶコルシカやポリネシアの島々などに焦点を当てる予定です。 受講者はひとり1回、自分が興味をもった小テーマについて、15分程度で発表してもらいます。		1. イントロダクション 2. ノルマンディー（１） 3. ノルマンディー（２） 4. ロワールの古城 5. ブルターニュ 6. ランス 7. アルザス（１） 8. アルザス（２） 9. ブルゴーニュ 10. リヨン 11. プロヴァンス（１） 12. プロヴァンス（２） 13. コルシカ 14. ポリネシア 15. まとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	興味のあるトピックについては、自分で本を読み、調べること。発表、レポートのテーマは自由選択です。		
テキスト、参考文献	（参考文献）田村毅・塩川徹也編『フランス文化事典』、丸善出版、2013 年。ほか、随時プリントを配布。		
評価方法	授業内のプレゼンテーション、および期末レポート。		

08 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅱ	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
かつての大国スペインは、たびたびフランスと戦争を繰り広げましたが、フランス南部とスペイン北部は、ピレネー山脈を越えて、さまざまな文化の往来がありました。また、地中海に面したスペインは、北アフリカと近接し、ヨーロッパにおけるイスラム文化の入り口でもありました。 スペインの芸術がフランスに与えた影響はきわめて大きく、逆もまた然りです。ベラスケスやゴヤなくして、マネと印象派の活躍はなく、芸術都市パリなくして、ピカソやダリはいなかったでしょう。また、情熱的なジプシー女カルメンは、19世紀に流行した「運命の女」の象徴です。 講義では、前半はスペイン絵画、後半では文学作品をとりあげ、じっさいに音楽を聴き、映像をみることによって、「火」と「燃える赤」というスペインに対するイメージがなぜ形成されてきたのかを考えたいと思います。 受講者はひとり1回、自分が興味をもった小テーマについて、15分程度で発表してもらいます。		1. イントロダクション 2. スペイン継承戦争 3. 『ドン・キホーテ』とその影響 4. 『ラス・メニーナス（女官たち）』 5. ベラスケスとマネ 6. ゴヤとマネ 7. ゴヤとルドン 8. メリメの『カルメン』（1） 9. メリメの『カルメン』（2） 10. ビゼーの『カルメン』（1） 11. ビゼーの『カルメン』（2） 12. パリのダリ 13. パリのピカソ 14. ガウディの建築 15. まとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	興味のあるトピックについては、自分で本を読み、調べる。発表、レポートのテーマは自由選択です。		
テキスト、参考文献	（参考文献）川成洋『現代スペイン読本 知っておきたい文化・社会・民族』、丸善出版、2008。 ほか、随時プリントを配布。		
評価方法	授業内のプレゼンテーション、および期末レポート。		

08 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅰ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
この講読では、フランス近代の詩人であるランボーの作品を読むことを行なう。 ランボーは、19世紀の後半に文学の創作を実践した詩人であるが、ロマン派の人々（とくに、ヴィクトル・ユゴー）やボードレールに大きな影響を受けつつ、詩作を始めた。しかし、やがて独自のテーマと書き方を見出し、独創的な作品を創造していった。 この学期には、まずランボーの初期韻文詩を綿密に講読したいと思う。 12音節で書かれたソネット形式の詩を読むのは初めてである者も多いと思われるので、丁寧に解説する。		1. 講読の仕方の説明 2. 最初の詩篇「感覚」を読む 3. 「感覚」の読解 4. ギリシア神話に基づき、美の女神アフロディテを讃える詩篇「太陽と肉体」を読む 5. 「太陽と肉体」の読解 6. 「太陽と肉体」の読解および解説 7. 「太陽と肉体」の読解および説明 8. 「太陽と肉体」の読解および解釈 9. 「太陽と肉体」の読解およびまとめ 10. シェイクスピアに基づく詩篇「オフェーリア」を読む 11. 「オフェーリア」の講読 12. 「オフェーリア」の講読および解説 13. 「オフェーリア」の講読および説明 14. 「オフェーリア」の講読および解釈 15. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点の復習をしてください。		
テキスト、参考文献	こちらで、プリントを用意する。湯浅博雄『ランボー論』思潮社。		
評価方法	実際にあたって訳すこと（50%）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50%）によっても評価する。		

08 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語芸術文化講読Ⅰ を継承して、この講読では、フランス近代の詩人であるランボーの作品を読むことを行なう。 この学期でも、前学期に引き続いて、主にランボーの初期韻文詩を綿密に講読したいと思う。 後期韻文詩のなかで、不意に想起した子供時代の印象を語る詩篇「記憶」も読んでみたい。ゆっくりと進み、詳細に解説する。		1. 講読の仕方の説明 2. 詩篇「谷間に眠る人」を読む 3. 「谷間に眠る人」の講読 4. 「谷間に眠る人」の講読および解説 5. 「谷間に眠る人」の講読および解釈 6. 放浪詩篇のうち、「わが放浪」を読む 7. 「わが放浪」の講読 8. 「わが放浪」の講読および解説 9. 「わが放浪」の講読および解釈 10. 「記憶」を読む 11. 「記憶」の講読 12. 「記憶」の講読および解説 13. 「記憶」の講読および説明 14. 「記憶」の講読および解釈 15. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	こちらで、プリントを用意する。湯浅博雄『ランボー論』思潮社。		
評価方法	実際にあたって訳すこと（50%）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50%）によっても評価する。		

08 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
Maurice Leblanc の 創作した怪盗アルセーヌ・ルパンを主人公とする中編小説を読む。 授業は毎回、数人の学生に 訳 を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。受講者制限をする可能性があるため、履修を希望する学生は必ず1 回目の授業に出席すること。 仏和辞書についての注意:学習者用の辞書・電子辞書(Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど)では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典(大修館書店)やロワイヤル仏和中辞典(旺文社)などの中辞典が必要である。特に担当者は学習用辞書だけで予習し、「辞書に載っていませんでした」と言い訳することは許さない。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。		1. 授業の概要説明。作者紹介 2. <i>L'Homme à la peau de bique</i> 講読 3. 続きの講読 4. 続きの講読 5. 続きの講読 6. 続きの講読 7. 続きの講読 8. 続きの講読 9. 続きの講読 10. 続きの講読 11. 続きの講読 12. 続きの講読 13. 続きの講読 14. 続きの講読 15. 続きの講読	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に仏和辞典を引き、和訳を準備する。事後に授業で明らかになった語彙・文法・内容を整理し、覚える。		
テキスト、参考文献	Maurice LEBLANC, <i>Le Cabochon d'émeraude précédé de L'Homme à la peau de bique</i> , Le Livre de Poche, 2001. 仏和辞典は上記参照。		
評価方法	定期試験(8 割)に授業への参加度(2 割)を加味する。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、試験の成績の如何に関わらず、成績を F とする。		

08 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行わない。		1. 講読。 <i>Le Cabochon d'émeraude</i> 講読 2. 続きの講読 3. 続きの講読 4. 続きの講読 5. 続きの講読 6. 続きの講読 7. 続きの講読 8. 続きの講読 9. 続きの講読 10. 続きの講読 11. 続きの講読 12. 続きの講読 13. 続きの講読 14. 続きの講読 15. 続きの講読	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期参照。		
テキスト、参考文献	春学期参照。		
評価方法	春学期参照。		

08 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。 講義概要： 春学期は Conversations avec Cézanne, Paris: Éditions Macula, 1978より、画家のエミール・ベルナールがエクスに尊敬するセザンヌを訪ねた際の訪問記 (Émile Bernard, « Les Souvenirs », <i>Mercure de France</i>, 1907) を読みます。 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。 一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。		1. ガイダンス＋訳読（序章） 2. 序章 3. 序章 4. I. L'arrivée à Aix 5. I. L'arrivée à Aix 6. I. L'arrivée à Aix 7. I. L'arrivée à Aix 8. II. Notre établissement à Aix 9. II. Notre établissement à Aix 10. II. Notre établissement à Aix 11. II. Notre établissement à Aix 12. III. Vie en société à l'atelier et chez nous 13. III. Vie en société à l'atelier et chez nous 14. III. Vie en société à l'atelier et chez nous 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を丹念に引き、構文を理解した上で自分なりの訳をつくって授業に臨むこと。 授業で扱った箇所を読み返す。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	平常点（毎回の訳読）と学期末試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。		

08 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Contenu : Nous lirons ensemble un petit texte de Michel Tournier : <i>Amandine ou les deux jardins</i>. Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes. Une fois que les pages lues ensemble auront été comprises, nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant les « grandes vacances ». Attention ! Nous continuerons la lecture d'<i>Amandine</i> pendant le deuxième semestre.		1. Présentation du cours 2. Présentation du livre <i>Amandine</i> et de son auteur, Michel Tournier 3. Lecture de la page 1 4. Lecture de la page 2 5. Lecture de la page 4 6. Présentation d'une mini bibliothèque 7. Lecture de la page 5 8. Lecture de la page 6 9. Lecture de la page 8 10. Lecture de la page 9 11. Lecture de la page 10 12. Lecture de la page 11 13. Lecture à voix haute d'un texte de son choix 14. Lecture à voix haute d'une page d'<i>Amandine</i> 15. Bilan	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	S'entraîner à la lecture à haute voix des pages lues pendant le cours.		
テキスト、参考文献	Photocopie Un dictionnaire français		
評価方法	La lecture à haute voix . Un rapport à la fin du semestre. Participation active au cours.		

08 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Contenu : Nous continuerons la lecture d'<i>Amandine</i> commencée en avril. Se reporter à ce qui est écrit dans la case du premier semestre. Nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant les « grandes vacances ». Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes afin de parvenir à une meilleure compréhension du texte. IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont invités à suivre le cours pendant le deuxième semestre. Cependant, les nouveaux étudiants sont aussi les bienvenus.		1. Présentation/Rappel des objectifs du cours et résumé des pages lues au 1er semestre 2. Présentation de l'œuvre et de son auteur 3. Lecture de la page 12 4. Lecture de la page 13 5. Lecture de la page 14 6. Lecture de la page 15 7. Lecture de la page 16 8. Lecture de la page 17 9. Lecture de la page 18 10. Lecture de la page 19 / Exposé sur le livre 1 11. Exposé sur le livre 2 12. Exposé sur le livre 3 13. Exposé sur le livre 4 14. Lecture à haute voix de l'une des pages préférées d'<i>Amandine</i> 15. Bilan	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	S'entraîner à la lecture à haute voix des pages lues pendant le cours.		
テキスト、参考文献	Photocopie Un dictionnaire français		
評価方法	La lecture à haute voix . Un rapport à la fin du semestre. Participation active au cours.		

08 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をちゃんと話したり書いたりできるようになりたかったら、しっかりと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。 今年度は、フランス文学界の鬼才Pierre Gripariの皮肉の利いた奇妙な味わいを持った短編集« La Rose réaliste »および« Contes cuistres »からいくつかを選んで精読します。春学期は<i>L'intoxiqué</i>, <i>Conte chinois</i>, <i>Le château de Langendorf</i>, <i>Mésaventures de Dieu</i> を読む予定です。 Gripariの文章は難解なものではありませんが、ひねくれた言い回しが多いので、じっくり腰を据えて取り組まないと解釈に苦労するかもしれません。		1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2. 講読 3. ” 4. ” 5. ” 6. ” 7. ” 8. ” 9. ” 10. ” 11. ” 12. ” 13. ” 14. ” 15. ”	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	Piere Gripari « <i>La Rose réaliste</i> », « <i>Contes cuistres</i> », L'Âge d'Homme, 1985, 1987 (プリントで配付)		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F 評価とする）		

08 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。 秋学期も継続して Pierre Gripari の« La Rose réaliste » および« Contes cuistres »からいくつかを選んで精読します。秋学期は <i>Le cruxifié</i> , <i>L'inverseur de temps</i> , <i>La véritable histoire de Pinocchio</i> を読む予定です。		1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2. 講読 3. 〃 4. 〃 5. 〃 6. 〃 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 〃 11. 〃 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 〃	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	Piere Gripari « <i>La Rose réaliste</i> », « <i>Contes cuistres</i> », L'Âge d'Homme, 1985, 1987 (プリントで配付)		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50% (ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F 評価とする)		

08 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅰ	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
18世紀の思想家ジャン＝ジャック・ルソーの『告白』<i>Les Confessions</i> を読みます。 ルソーの思想書は、フランスの市民に熱心に読まれ、革命を準備したと言われます。そのいっぽうで、『告白』はフランスの自伝的文学の記念碑的作品として、世界中に影響を与えました。音楽に情熱を捧げた孤独な市井の人、というルソーの素顔を伝える作品で、書き手の瑞々しい感受性と、美しい文体はいまなお読む人の心を打ちます。とくに「ツルニチニチソウ」のエピソードは、ブルーストの「紅茶に浸したマドレーヌ」と並び、文学における記憶の重要性を表したとして名高い章です。 受講者は必ず原書を1冊購入すること。授業内では通読できませんが、好きなだけ読み進めてください。授業では、とくにルソーの人生の転機となるエピソードをとりあげ、ひとり数ページをわりあて、鍵となる箇所の訳読と解説をしてもらいます。初回には必ず出席すること。		1. イントロダクション 2. 自伝とはなにか 3. ルソーによる序言 4. ルソーの生い立ち 5. ヴァランス夫人との出会い 6. イタリアのルソー 7. パリのルソー 8. 音楽への情熱 9. ツルニチニチソウの思い出 10. 「ママン」との別れ 11. オペラ『村の占者』 12. ディドロと『百科全書』 13. 『人間不平等起源論』 14. 迫害と亡命 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	すくなくとも翻訳は通読すること。		
テキスト、参考文献	ルソー『告白』（全3巻）、桑原武夫訳、岩波文庫。 Jean-Jacques Rousseau, <i>Les Confessions</i> , Folio Classique.		
評価方法	授業内の訳読および期末レポート		

08 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
18 世紀後半の作家ショデルロ・デ・ラクロの『危険な関係』 <i>Les Liaisons dangereuses</i> を読みます。革命の迫るパリで発表されたこの書簡体小説は、背徳的な作品として、大きなスキャンダルとなりました。 名うてのプレイボーイ、ヴァルモン子爵は、妖艶なメルトゥイユ侯爵夫人にそそのかされ、清純なセシルと、貞淑なツールヴェル法院長夫人に、危険な恋の戯れをしかけますが、運命は思わぬ方向に全員を導きます。登場人物がかかわす 175 通の手紙は、人間関係の糸を複雑にもつれさせ、やがて破局へと至るスリリングな物語を構成しています。近代小説の地平を切り開く心理小説を通して、フランスならではの男女の恋愛のあやを読み解きましょう。 受講者は必ず原書を 1 冊購入すること。授業内では通読できませんが、好きなだけ読み進めてください。授業では、ひとり数通の手紙をわりあて、とくに鍵となる箇所の訳読と解説をしてもらいます。初回には必ず出席すること。		1. イントロダクション 2. 18 世紀、退廃のパリ 3. 書簡体小説とはなにか 4. 少女セシルの社交界デビュー 5. 妖婦とプレイボーイの賭け 6. 法院長夫人の美徳 7. 恋人の身体を机がわりに... 8. 婚約者の略奪 9. メルトゥイユ夫人の嫉妬 10. 望まぬ妊娠 11. 去ってゆく人妻 12. 恋の成就 13. 誤解と怒り 14. 決闘のはてに 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	すくなくとも翻訳は通読すること。		
テキスト、参考文献	ラクロ『危険な関係』、竹村猛訳、角川文庫。 Choderlos de Laclos, <i>Les Liaisons dangereuses</i> , Folio Classique.		
評価方法	授業内の訳読および期末レポート		

08 年度以降	フランス地域論 I	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考えると共に、フランスの理念について考える。 フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度の体系 (2)、およびその一般原則と特例 (3～4) について学ぶ。さらに、制度の成立の経緯と変化 (5～13) に関して、旧体制時代の地方 (プロヴァンス) を基本的に否定する地方制度として誕生した近代の県 (デパルトマン)、ならびに広域地方として誕生した現代のレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。さらに、日本の市町村に対応する基礎的自治体としてのコミューンの実情およびその合併と連合を通して、身近な地域の枠組みのあり方について考える。		1. はじめに：地域概念 2. 地域の枠組みと主体 3. 海外フランス 4. コルシカ地方公共団とフランス共和国 5. プロヴァンスから近代の県へ (1) 6. プロヴァンスから近代の県へ (2) 7. レジオンの誕生 (1) 8. レジオンの誕生 (2) 9. 中間のまとめ 10. 基礎自治体としてのコミューン 11. コミューンの合併と連合 (1) 12. コミューンの合併と連合 (2) 13. コミューンの合併と連合 (3) 14. コミューンの合併と連合 (4) 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
到達目標	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に日本についての予備知識を得ておくと、講義で学ぶフランスの地域および地方についての理解が深まる。事後には、フランスの国と地方のあり方とその根底にある考え方について自ら考察を続けること。		
テキスト、参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		
評価方法	試験またはレポートの結果によって評価する。		

08 年度以降	フランス地域論Ⅱ	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの地域および社会を幾つかの主題を通して学ぶことによって、その実態を知ると同時に、地域と社会をめぐる問題について考える。 講義の主題と概要はおおよそ以下の通りである。 まず、現代フランス社会における若者の意識を他国の若者の意識との比較しながら捉え、その背景について考える。 次に、フランスの都市郊外部（バンリウ）などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の実情、およびその是正に向けた「都市政策」の取り組みを通して、現代フランスの地域社会について学ぶ。 また、フランスの地域および社会における活動の主体としてのアソシアシオンすなわち非営利団体の制度と実態について学び、その可能性について考える。		1. 地域と社会：若者の意識(1) 2. 地域と社会：若者の意識(2) 3. 地域と社会：若者の意識(3) 4. 都市郊外部の実情と問題(1) 5. 都市郊外部の実情と問題(2) 6. 都市郊外部の実情と問題(3) 7. 都市郊外部の実情と問題(4) 8. 都市郊外部の実情と問題(5) 9. 中間のまとめ 10. 都市問題への取り組み(1) 11. 都市問題への取り組み(2) 12. 都市問題への取り組み(3) 13. アソシアシオン(1) 14. アソシアシオン(2) 15. まとめ 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
到達目標	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に日本における雇用、教育、生活環境などの問題をある程度知っておくと、フランスの地域社会に関する講義の理解が深まる。事後には、講義で培う知見と問題意識をもって現代の地域社会に目を向ける。		
テキスト、参考文献	テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		
評価方法	試験またはレポートの結果によって評価する。		

08 年度以降	フランスの歴史 I	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の基本テーマや、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目的とする授業です。 春学期は、古代、中世、近世の各時代、およびフランス革命について概観します。		1. 授業ガイダンス 2. 古代 1：ケルト時代 3. 古代 2：ガロ＝ローマ時代 4. 古代 3：古代まとめ 5. 中世 1：初期中世 6. 中世 2：盛期中世 7. 中世 3：後期中世 8. 中世 4：中世まとめ 9. 近世 1：16 世紀 10. 近世 2：17 世紀 11. 近世 3：18 世紀 12. 近世 4：近世まとめ 13. フランス革命（1） 14. フランス革命（2） 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理することが求められます。詳細は最初の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	プリント配布。参考文献については授業で指示します。		
評価方法	平常点（10％）と、2 回のテストの成績（90％）を総合して評価します。		

08 年度以降	フランスの歴史Ⅱ	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の基本テーマや、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目的とする授業です。 秋学期前半は、フランス 19 世紀史を概観します。後半は、「フランス史の諸問題」と題して、より具体的なテーマを取り上げて論じます。詳細については、最初の授業で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。		1. 授業ガイダンス 2. 19 世紀 (1) 3. 19 世紀 (2) 4. 19 世紀 (3) 5. 19 世紀 (4) 6. 19 世紀まとめ 7. フランス史の諸問題 (1) 8. フランス史の諸問題 (2) 9. フランス史の諸問題 (3) 10. フランス史の諸問題 (4) 11. フランス史の諸問題 (5) 12. フランス史の諸問題 (6) 13. フランス史の諸問題 (7) 14. フランス史の諸問題 (8) 15. 全体のまとめ	
到達目標	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理することが求められます。詳細は最初の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	プリント配布。参考文献については授業で指示します。		
評価方法	平常点（10％）と、2 回のテストの成績（90％）を総合して評価します。		

08 年度以降	フランスの政治経済Ⅰ	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
現代のフランスの歴史家・政治学者であるパトリック・ヴェイユによれば、「フランス人」というアイデンティティは、社会・政治的な「四本の柱」によって支えられています。四本の柱とは、第一に、人権宣言に掲げられた〈平等〉原理、第二に、1539年にフランス王国によって確立され、教育制度を通じて文化統合の手段とされてきた〈フランス語〉、第三にヨーロッパ大陸の他の国々がもたない〈革命〉についての肯定的な記憶、第四の支柱として、1905年の政教分離法にみられるような〈ライシテ（非宗教性）〉の原理です。 本講義では、まず前半に三つの柱（平等、革命、ライシテ）の歴史的・理論的背景についての認識を深めます。講義の後半では、こうしたフランスの普遍的原理の拡張が抱える矛盾や困難を理解しながら、現在の政治経済の状況を学びます。		1. 講義目的と概要の説明 2. 平等について① 3. 平等について② 4. 革命について① 5. 革命について② 6. ライシテについて① 7. ライシテについて② 8. 講義のまとめ① 9. 第三共和制 10. 第一次世界大戦前後の時代 11. 植民地主義① 12. 植民地主義② 13. 第五共和政と脱植民地化 14. 第五共和政と欧州統合 15. 講義のまとめ② 以上の授業計画には多少の変更もありえます。	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回授業で紹介する文献を精読してください。		
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献は講義のなかで適宜紹介します。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度（コメントの記入・発言など） 20%		

08 年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、主に 1981 年のミッテラン政権誕生から現在にいたるまでの時代を対象とし、次の二つを目的とします。第一の目的は、フランスの政治・経済・社会政策の流れの変化を学ぶこと、第二の目的は、フランスの福祉国家の危機と欧州統合との関連を理解することです。 講義は、「テキスト、参考文献」欄に挙げた『現代フランス』に沿って進めますが、このテキストに取り上げられている考えや事象について適宜解説します。		1. 講義目的と概要の説明 2. 栄光の 30 年 3. 68 年 5 月 4. 福祉国家① 5. 福祉国家② 6. ミッテラン政権① 7. ミッテラン政権② 8. シラク政権① 9. シラク政権② 10. サルコジ政権① 11. サルコジ政権② 12. オランド政権① 13. オランド政権② 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ② 以上の授業計画には多少の変更もありえます。	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献に掲げたテキスト並びにそこで言及されている文献を読み進めて理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	渡邊啓貴『現代フランスー「栄光の時代」の終焉、欧州への活路』岩波書店、2015 年		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度（コメントの記入・発言など） 20%		

08 年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。本講義では、第2次世界大戦以前から今日の EU に至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、ドイツ人勝ちと言われる現在の EU におけるフランスの役割について考えていきたい。		1. 講義の概要 2. 戦前の統合構想（1） 3. 戦前の統合構想（2） 4. 第2次大戦期の統合構想 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランと ECSC 7. 欧州防衛共同体構想 8. EEC の設立に向けて 9. ドゴールとヨーロッパ統合（1） 10. ドゴールとヨーロッパ統合（2） 11. 1970 年代のフランスと統合 12. ミッテラン時代の統合政策 13. EU 誕生から今日まで（1） 14. EU 誕生から今日まで（2） 15. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。 授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。		
テキスト、参考文献	プリント配布 参考文献：授業中に紹介		
評価方法	複数回のテスト（90%）と授業への参加度（10%）によって評価する。		

08 年度以降	フランス現代思想Ⅰ	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスは17世紀以来、ヨーロッパにおいて思想の分野で指導的な役割を果たしてきましたし、今でも果たしています。この講義ではデカルトやパスカルの時代から始まってデリダやラカンなど、いわゆる「ポストモダン」と呼ばれる現代思想までを、テキストの抜粋を読みながら追っていきます。 思想というと何かむずかしいものと思われていますが、実は我々にとって切実な事柄を具体的な言葉で語ろうとするのが「思想」あるいは「哲学」です。 春学期はデカルトから始まって19世紀終わりまでのヨーロッパの思想の流れを概観します。 学生の皆さんがものを考える上で、必ず参考になるだろうと確信しています。		1. 近代哲学の始まりーデカルトについて1 2. 同2 3. キリスト教のもたらしたものーパスカル1 4. 同2 5. 18世紀啓蒙主義の思想と現実1 6. 18世紀啓蒙主義の思想と現実2 7. ルソーとフランス革命1 8. ルソーとフランス革命 9. カントの「啓蒙とは何か」を読む 10. ドイツ観念論の哲学とヘーゲル 11. ニーチェ1 12. ニーチェ2 13. マルクスの思想 14. フロイトと精神分析1 15. フロイトと」精神分析2	
到達目標	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考資料としてプリントを配布するので、あらかじめ調べておいてください。		
テキスト、参考文献	デカルト「方法序説」（岩波文庫）など。その都度指示する		
評価方法	授業への参加度（授業への積極性を含む）および期末レポートにより評価する		

08 年度以降	フランス現代思想Ⅱ	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は春の続きで、第2次世界大戦後のフランス思想を概観します。具体的にはサルトルの「実存主義」から始まって、構造主義の時代、そしてその後のいわゆる「ポスト構造主義」までの流れをフランス語のテキストを読みながら追っていきます。今年は特に「脱構築」の思想家ジャック・デリダ、精神分析家ジャック・ラカン、そして文芸評論家モーリス・ブランショに焦点を合わせてみたいと考えています。これらの著作家の作品は多くが日本語に翻訳されていますが、それらを参考にしながら、翻訳することがどれほどにも難しく、大切なことなのを見ていきます。		1. 序論「栄光の30年」におけるフランス思想 2. サルトルと実存主義1 3. サルトルと実存主義2 4. 構造主義とは何か？1 5. 構造主義とは何か？2 6. モーリス・ブランショの評論を読む1 7. モーリス・ブランショの評論を読む2 8. モーリス・ブランショの評論を読む3 9. 9精神分析の新展開-ラカン1 10. 精神分析の新展開-ラカン2 11. 精神分析の新展開-ラカン3 12. 「脱構築」の思想-デリダ1 13. 「脱構築」の思想-デリダ2 14. 「脱構築」の思想-デリダ3 15. まとめ	
到達目標	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考資料としてプリントを配布するので、あらかじめ調べておいてください		
テキスト、参考文献	サルトル、ソシュール、ブランショ、ラカン、デリダなどの著作（ほとんど日本語訳があります）。		
評価方法	授業への参加度（授業への積極性を含む）および期末レポートで評価する。		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の現代社会 I 現代フランス論 I	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、教育、労働、社会保障、国境管理（ポスポートなどによる）といった領域の諸制度の理解を深めることを通じて、フランス社会の現状を概観してみたいと思います。 社会は様々な制度によって媒介され成り立っています。そうした諸制度は、それを作った人々の気質やその歴史を反映した形でつくられています。他方で、同じ諸制度が人々のあり方がある程度規定していると言ってもよいでしょう。煎じ詰めれば、人は制度を作る一方で、みずからの作り出した制度によって、作られていきます。 こうした問題意識をふまえつつ、本講義では様々な領域の諸制度に着目することで、現代のフランス社会をより深く理解することを目的とします。		1. イントロダクション 2. 教育① 3. 教育② 4. 労働① 5. 労働② 6. 社会保障① 7. 社会保障② 8. 講義のまとめ① 9. 国境管理① 10. 国境管理② 11. 国籍① 12. 国籍② 13. 宗教① 14. 宗教② 15. 講義のまとめ② 以上の授業計画には多少の変更もありえます。	
到達目標	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回授業で扱う文献や映画を精読したり鑑賞したりしてください。		
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献は講義のなかで適宜紹介します。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度（コメントの記入・発言など） 20%		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の現代社会Ⅱ 現代フランス論Ⅰ	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
2015 年 1 月 7 日の『シャルリー・エブド』誌襲撃事件と同年 11 月 13 日に起きたパリ連続襲撃事件は、関連するシリア内戦や難民の状況と同様に、大きな波紋を広げています。 本講義では、これら二つの事件の背景にあるいくつかの要素を析出し、現代のフランス社会が直面している（国内的・国際的問題）を理解したいと思います。より具体的には、「テロとの戦争」というものが、宗教から国益に基づいて行われるようになった近代の戦争の歴史のなかで占める位置の検討、2015 年の襲撃事件の際しばしば引き合いに出されたアメリカの 9・11 との比較、さらには〈郊外〉における移民の統合の「失敗」と〈グローバルジハード〉の重なり合いについての考察などを試みたいと思います。		1. イントロダクション 2. 近代の戦争の歴史① 3. 近代の戦争の歴史② 4. 現代のテロリズムについて 5. アメリカの〈9・11〉とイラク戦争 6. 空爆について 7. 〈アラブの春〉について 8. 講義のまとめ① 9. 〈郊外〉について① 10. 〈郊外〉について② 11. 〈ジハード〉と〈フィトナ〉 12. イスラエル・パレスチナ問題① 13. イスラエル・パレスチナ問題② 14. マリ内戦について 15. 講義のまとめ② 以上の授業計画には多少の変更もありえます。	
到達目標	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回授業で扱う文献や映画を精読したり鑑賞したりしてください。		
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献は講義のなかで適宜紹介します。		
評価方法	レポート 80%、授業への参加度（コメントの記入・発言など） 20%		

08 年度以降	フランス現代社会各論 I	担当者	P.H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
La francophonie dans l'océan Pacifique sud : Nouvelle-Calédonie, Vanuatu, Wallis et Futuna et Polynésie française. Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas des territoires francophones du Pacifique sud, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le cours se concentrera sur le cas de la Nouvelle-Calédonie. Le contenu du cours peut varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !		1. Introduction générale 2. Données géographiques de l'océan Pacifique. 3-6. Géographie et économie de la Nouvelle-Calédonie. 7-9. Géographie et économie du Vanuatu. 10-11. Géographie et économie de Wallis et Futuna. 12-13. Géographie et économie de la Polynésie française. 14. La question des essais nucléaires en Polynésie. française. 15. Conclusions du premier semestre.	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Préparer la fiche donnée au cours précédent, approfondir le thème traité en utilisant la bibliothèque ou internet.		
テキスト、参考文献	Polycopiés, internet, extraits de films.		
評価方法	Rapport écrit en français sur un thème choisi sur une liste.		

08 年度以降	フランス現代社会各論Ⅱ	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
La francophonie dans l'océan Pacifique sud : La société en Nouvelle-Calédonie Voir ci-dessus la présentation du cours. Après une introduction sur l'arrivée de différents peuples dans l'océan Pacifique sud, Le deuxième semestre est consacré à la Nouvelle-Calédonie et plus spécialement à la coexistence des différentes communautés, dans une approche historique.		1. Bilan du 1^{er} semestre et introduction du second. 2. Le peuplement de l'océan Pacifique. 3. La découverte par les Européens du Pacifique. 4. La colonisation occidentale du Pacifique. 5. La découverte de la Nouvelle-Calédonie. 6. La société kanak au moment de la découverte. 7-8. Les immigrations en Nouvelle-Calédonie. 9. Résistance et révoltes des Kanak. 10. La Seconde Guerre mondiale. 11. Émancipation juridique des Kanak. 12. Conflits ouverts des années 80. 13. Les accords de Matignon et de Nouméa. 14. Perspectives d'avenir : l'indépendance ou non ? 15. Conclusions générales	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Préparer la fiche donnée au cours précédent, approfondir le thème traité en utilisant la bibliothèque ou internet.		
テキスト、参考文献	Polycopiés, internet, extraits de films.		
評価方法	Rapport écrit en français sur un thème choisi sur une liste.		

08 年度以降	フランス現代社会各論Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化の進展に伴い、世界各国の生活や消費が均質化していくと同時に、私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化した。こうした流れの中で、フランスの社会やフランス人の消費傾向は具体的にどのように変化したのだろうか。本講義では、フランス語のテキストを題材に、20 世紀から 21 世紀にかけてのフランス社会の変容を考察するとともに現代フランス社会の特徴を確認する。 本講義では授業計画に記載のテーマを扱う予定だが、受講者の関心やフランスの最新のニュースに応じて多少の変更が生じる可能性がある。 各受講者には最低 1 回の発表（10 分程度）をしてもらう予定でいる。		1. 講義の概要 2. Les petits commerçants 3. Les paysans 4. La classe ouvrière 5. La famille française 6. La femme au foyer 7. Dans la cuisine 8. La consommation de vin 9. La consommation de bœuf 10. Les supermarchés et les supérettes 11. Les transports 12. Les télécommunications 13. Les cafés 14. Les pratiques religieuses 15. まとめ	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定したテキストを事前に読んでくること。 授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	授業での発言と発表（50%）、複数回の課題提出（50%）によって評価する。		

08 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
19世紀の歴史画を解説した下記の本から、中世に関する 3 つの章を選んで読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. Un roi de France à Saint-Denis (1) 3. Un roi de France à Saint-Denis (2) 4. Un roi de France à Saint-Denis (3) 5. Un roi de France à Saint-Denis (4) 6. Les abîmes de la guerre de Cent Ans (1) 7. Les abîmes de la guerre de Cent Ans (2) 8. Les abîmes de la guerre de Cent Ans (3) 9. Les abîmes de la guerre de Cent Ans (4) 10. Jeanne la Pucelle sauve le royaume (1) 11. Jeanne la Pucelle sauve le royaume (2) 12. Jeanne la Pucelle sauve le royaume (3) 13. Jeanne la Pucelle sauve le royaume (4) 14-15. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理して確認するようにしてください。		
テキスト、参考文献	Dimitri Casali et Christophe Beyeler, <i>L'histoire de France par la peinture</i> , Fleurus, 2008.		
評価方法	平常点（20％）と、テスト（1 回）の成績（80％）を総合して評価します。		

08 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なエピソードやフレーズを集めて解説した下記の本から、アンシアン・レジームに関する3つの章を選んで読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. La véritable couleur du cheval blanc d'Henri IV (1) 3. La véritable couleur du cheval blanc d'Henri IV (2) 4. La véritable couleur du cheval blanc d'Henri IV (3) 5. La véritable couleur du cheval blanc d'Henri IV (4) 6. Le mystère de la bête du Gévaudan (1) 7. Le mystère de la bête du Gévaudan (2) 8. Le mystère de la bête du Gévaudan (3) 9. Le mystère de la bête du Gévaudan (4) 10. Aoutourou, l'ami de Bougainville (1) 11. Aoutourou, l'ami de Bougainville (2) 12. Aoutourou, l'ami de Bougainville (3) 13. Aoutourou, l'ami de Bougainville (4) 14-15. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理して確認するようにしてください。		
テキスト、参考文献	Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		
評価方法	平常点（20％）と、テスト（1回）の成績（80％）を総合して評価します。		

08 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。 講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学ぶ。年間の講義時間を考慮して、春学期は世界遺産制度および遺産事例 2 件程度を取り上げる。 講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメントや補足説明などを行う形で進める。		1. 講義概要の説明 2. 世界遺産制度（1） 3. 世界遺産制度（2） 4. 世界遺産制度（3） 5. リヨンの 2 千年（1） 6. リヨンの 2 千年（2） 7. リヨンの 2 千年（3） 8. リヨンの 2 千年（4） 9. リヨンの 2 千年（まとめ） 10. ミディ運河（1） 11. ミディ運河（2） 12. ミディ運河（3） 13. ミディ運河（4） 14. ミディ運河（まとめ） 15. 総括 以上の授業計画には多少の変更もありうる	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを読んで、自分の力で内容を理解することに努める。事後には、講義で学んだ内容を自分で再確認し、遺産の意味を考える。		
テキスト、参考文献	講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		
評価方法	試験の結果（70%）および授業中の発表（30%）によって評価する。		

08 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。 講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、秋学期に取り上げる遺産は3件程度とし、前学期および前年度とは異なるものを取り上げる 講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。		1. 講義概要の説明。 2. サン・ジャックの路（1） 3. サン・ジャックの路（2） 4. サン・ジャックの路（3） 5. サン・ジャックの路（まとめ） 6. パリのセーヌ河岸（1） 7. パリのセーヌ河岸（2） 8. パリのセーヌ河岸（3） 9. パリのセーヌ河岸（4） 10. パリのセーヌ河岸（まとめ） 11. ベルギーとフランスの鐘楼群（1） 12. ベルギーとフランスの鐘楼群（2） 13. ベルギーとフランスの鐘楼群（3） 14. ベルギーとフランスの鐘楼群（まとめ） 15. 総括 以上の授業計画には多少の変更もありうる。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを読んで、自分の力で内容を理解することに努める。事後には、講義で学んだ内容を自分で再確認し、遺産の意味を考える。		
テキスト、参考文献	講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		
評価方法	試験の結果（70%）および授業中の発表（30%）によって評価する。		

08 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、フランス語のテキストを通して、フランス社会における重要な問題のひとつである移民問題に関する考察を行う。学期の前半ではフランスにおける移民の歴史を概観し、後半では移民問題の現状に関する多様なテーマを取り上げる予定である。 本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読むことにより、社会科学系の文章に慣れるとともに、文章の要旨を把握する力を鍛えることにある。授業の際には辞書を必ず持ってくること。		1. 講義の概要 2. 19 世紀末から第 1 次大戦 3. 両大戦間期 4. ヴィシー政権期 5. 栄光の 30 年 6. 1970 年代不況以降 7. EU の移民政策とフランス 8. フランス国籍 9. サッカーと移民 10. 移民と家族 11. 移民の子どもたちと教育 12. 労働力需要と移民 13. 同化か多文化共存か 14. 暴動と都市再開発 15. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を予習したうえで授業に臨むこと。 授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	発表（50％）と提出課題（50％）によって評価する。		

08 年度以降	フランス現代社会講読Ⅰ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
バタイユは独特な思想家・文学者であり、現代思想の先駆者のひとりであると言ってもよいが、もともとフランス社会学の研究者でもある。デュルケーム、モースの著作をよく読み、社会学の根本的な問題系を、自分の問題として探究している。 問われるのは、一方で、人間が「労働し、生産活動を営む者」になっていくと同時に、他方で、「聖なるもの」や「至高なるもの」を気づかうようになる、という問題である。すなわち、なぜ人間は「宗教的なもの」を経験するようになったのだろうかというテーマを、バタイユは究明しようとしている。 この学期では、バタイユ『宗教の理論』を読みながら、「聖なるもの」、「至高なるもの」というテーマについて考える。		1. 講読の説明 2. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の講読 3. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の解説 4. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の説明 5. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の読解 6. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の解釈 7. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の講読 8. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の解説 9. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の説明 10. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の読解 11. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の解釈 12. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の講読 13. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の解説 14. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の説明 15. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の解釈	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読してください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	プリントをこちらで用意する。参考書、バタイユ『宗教の理論』湯浅訳、ちくま学芸文庫。		
評価方法	あたって訳読すること(50%)によって評価するとともに、期末に、テキストの内容についての、自由なレポートを提出してもらうこと(50%)によっても評価する。		

08 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の講読を引き継いで、この学期では、バタイユ『ラスコーの壁画』を読みながら、「聖なるもの」と「芸術」というテーマについて考えたい。 バタイユは、『ラスコーの壁画』の副題として、「芸術の誕生」という言い方をしている。人間が「聖なるもの」や「至高なるもの」を気づかうようになるということは、ある種の「戯れ」の動きを実行するようになることではないだろうか。戯れの動きというのは、「至高なるもの」と結ばれるのではない。 こうした問いを、『ラスコーの壁画——芸術の誕生』を読みつつ、考えて行きたい。		1. 講読するテキストの説明 2. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』序章の解説 3. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』序章の解釈 4. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第一章の解説 5. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第一章の説明 6. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第一章の解釈 7. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第二章の解説 8. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第二章の説明 9. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第二章の解釈 10. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第三章の解説 11. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第三章の説明 12. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第三章の理解 13. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』第三章の解釈 14. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』の総括 15. バタイユのテキスト『ラスコーの壁画』の包括的まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読してください。要点を復習してください。		
テキスト、参考文献	プリントをこちらで用意する。バタイユ『ラスコーの壁画』出口裕弘訳、二見書房。		
評価方法	あたって訳読すること(50%)によって評価するとともに、期末に、テキストの内容についての、自由なレポートを提出してもらうこと(50%)によっても評価する。		

08 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
声に出して読むフランス語 フランス語で書かれたテキスト（文章など）を、耳にただけでわかるように読むことを目指します。授業でも、実際に繰り返して声に出して読んでいただきます。 読む本人がわかっていなければ、聞いているひとがわかることは非常に難しいでしょう。 書かれたテキストの意味をとらえ、ひとに伝える力を、実践をとおして身につけていきます。 今年度は Albert Camus（1913 - 1960、1957年ノーベル文学賞）の哲学的エッセー <i>Le Mythe de Sisyphe</i> (1942) をとりあげます。 いわゆる「仏文和訳」の授業はおこないません。とくにフランス語として、内容として難しい部分への質問・解説に時間をかけます。 指定された部分を暗記し、ほぼ毎回おこなう小テストで書いていただきます。		1. オリエンテーション・ガイダンス 2. <i>Le Mythe de Sisyphe</i> (1) 3. (2) 4. (3) 5. (4) 6. L'ABSURDE ET LE SUICIDE (1) 7. (2) 8. (3) 9. (4) 10. (5) 11. LES MURS ABSURDES (1) 12. (2) 13. (3) 14. (4) 15. (5)	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習・復習・暗記		
テキスト、参考文献	Albert Camus, <i>Le Mythe de Sisyphe</i> （抜粋・担当者が用意します）		
評価方法	授業への参加度・小テスト（各50％） 定期試験・追試験・卒業再試験・レポートによる救済はおこないません。		

08 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		1. オリエンテーション・ガイダンス 2. LE SUICIDE PHILOSOPHIQUE (1) 3. (2) 4. (3) 5. (4) 6. (5) 7. (6) 8. (7) 9. LA LIBERTÉ ABSURDE (1) 10. (2) 11. (3) 12. (4) 13. (5) 14. (6) 15. (7)	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期参照		
テキスト、参考文献	春学期参照		
評価方法	春学期参照		

08 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス革命の理論的支えとなったジャン・ジャックルソーの「社会契約論」を読みます。今日本および世界は大きな変動の時代に入っています。いわゆる「格差社会」化がいたるところで進行しており、このままでは最終的に戦争しか解決方法がないというところまで行くのではないかと私は懸念しています。 そうしたなかで、民主主義とは何かを誰にもわかる言葉で明らかにした「社会契約論」(Du contrat social 1762)の理論は、今でも圧倒的な新しさを失っていません。この授業では、特に第1部と第2部を中心に読んでいきます。テキストを配布するので、あらかじめ予習しておくとう内容がよくわかると思います。 これと関連して、同じルソーの「人間不平等起源論」「言語起源論」などにも触れます。 なお学生諸君の学力、要望などにより、内容を若干変更することがあります。		1. イントロダクション 2. 第1部第1章 3. 第2章(1) 4. 第2章(2) 5. 第3章 6. 第4章(1) 7. 同(2) 8. 同(3) 9. 同(4) 10. 第5章 11. 第6章(1) 12. 同(2) 13. 同(3) 14. 同(4) 15. 同(5)とまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	翻訳などでテキストをあらかじめ読んでおくこと		
テキスト、参考文献	Jean-Jacques Rousseau, <i>Du contrat social</i> , GF Flammarion (プリントも使います)		
評価方法	授業への参加度と期末レポート		

08 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス革命の理論的支えとなったジャン・ジャックルソーの「社会契約論」を読みます。今日本および世界は大きな変動の時代に入っています。いわゆる「格差社会」化がいたるところで進行しており、このままでは最終的に戦争しか解決方法がないというところまで行くのではないかと私は懸念しています。 そうしたなかで、民主主義とは何かを誰にもわかる言葉で明らかにした「社会契約論」(Du contrat social 1762)の理論は、今でも圧倒的な新しさを失っていません。この授業では、特に第1部と第2部を中心に読んでいきます。テキストを配布するので、あらかじめ予習しておくとう内容がよくわかると思います。 これと関連して、同じルソーの「人間不平等起源論」「言語起源論」などにも触れます。 なお学生諸君の学力、要望などにより、内容を若干変更することがあります。		1. 第1部第7章(1) 2. 同(2) 3. 同(3) 4. 第8章 5. 第9章(1) 6. 同(2) 7. 同(3) 8. 第2部第1章 9. 第2章(1) 10. 同(2) 11. 第3章(1) 12. 同(2) 13. 同(3) 14. 第4章(1) 15. 第4章(2)	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	翻訳などでテキストをあらかじめ読んでおくこと		
テキスト、参考文献	Jean-Jacques Rousseau, <i>Du contrat social</i> , GF Flammarion (プリントも使います)		
評価方法	授業への参加度と期末レポート		

交 流 文 化 論

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』 15. 講義のまとめと試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	（参考文献）トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。		
評価方法	期末試験（100％）。		

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説をする。		1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港 15. 講義全体の“まとめ”	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）		
テキスト、参考文献	テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社）		
評価方法	受講姿勢、講義参画：50％ 最終試験：50％		

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。		1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 1章 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話3章 5. 教育・学び・文化4章、5章 6. ジェンダーとフェミニズム6章2 7. 宗教と社会開発NGO 7章2 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7章3 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛8章2 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8章3 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。 ※DUO等で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることが出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。		1、ガイダンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境 6、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 7、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 8、パッケージツアー③：商品企画における「知識」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、テーマ化された空間の将来 14、観光化する社会と「ツーリズムの終焉」？ 15、まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。 ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。		1. ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③：「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの 19 世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20 世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20 世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20 世紀とメディア③：湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディアと わたしたち 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（戦争の記憶と表象—オーストラリアと日本） 授業の導入部分では、4月25日のANZAC DAYを概観する。オーストラリアの義勇兵が、第1次世界大戦のはじめ、トルコのガリポリで上陸作戦を開始した記念日だが、昨今は、愛国心の過度の表出を懸念する向きもある。 http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/ その後の授業では、検討の対象を日本に移し、「特攻」を賛美するかのような近年の風潮や、兵隊たちと性行為を強要させられていた女性たちの「強制連行」がなかったと主張する政府やメディアの戦略を考える。沖縄での強制集団死や、朝鮮人、中国人強制連行・労働などを含め、戦争が日本でどのように記憶され、文化的に表象されてきたかを問題にし、受講生と共にディスカッションしていく。映画『ホテル』や、井上ひさしの戯曲『きらめく星座』なども題材として取り上げる予定。 土日などを利用して、靖国神社「遊就館」や「わたしの戦争と平和資料館」など、学外の施設を見学してもらう。		1. イントロダクション 2. ANZAC 3. ANZAC 4. ANZAC(ディスカッション) 5. ANZAC(まとめ) 6. 「慰安婦」（導入） 7. 「慰安婦」（1） 8. 「慰安婦」（2） 9. 「沖縄・集団死」（1） 10. 「沖縄・集団死」（2） 11. 「強制連行・労働」（1） 12. 「強制連行・労働」（2） 13. 戦争の記憶と映画・演劇 14. 戦争の記憶と映画・演劇 15. まとめのディスカッション	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。		
テキスト、参考文献	参考文献として、Norma Field, <u>In the Realm of a Dying Emperor</u> (1993)を挙げておく。日本語訳で読むことも可能（共に本学図書館所蔵）。その他、英文のものを含め、新聞・雑誌記事などを使う。詳しくは初回の授業で説明する。		
評価方法	学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポート、毎週書き込んでもらうクラスのフェイスブックを評価の対象とする。十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。 具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思います。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。		1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌 1 4. グローバリゼーションの民族誌 2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急Ⅰ』 7. 表象の政治学—情報資本主義と観光 8. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光—「神々の島」パリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム—タイの事例 13. エスニック・ツーリズム—タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。		1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. オリンピックの歴史・意義・役割について 10. ビジネスの視点からのオリンピック① 11. ビジネスの視点からのオリンピック② 12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 13. " ② 14. " ③ 15. まとめ	
講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。			
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70％ プレゼンテーションとレポート：30％		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。		1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造（1） 3. ツーリズムの基本構造（2） 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ”	
講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。			
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に確認しておくこと		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する		
評価方法	受講姿勢、講義参画：70％ 最終試験：30％		

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の<u>実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の<u>可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 在日コリアンを例に 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	参考文献は適宜授業中に示す。		
評価方法	期末試験（85%）、学期中宿題としてレポート課題が1 回ある（15%）。		

13 年度以降 09～12 年度	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展することとはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NY のドッグランと防犯、インドネシアでの NGO 活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. インTRODakション 2. 地域の発展を理解するための視座（教科書 1 章） 3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2 章） 4. 生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3 章） 5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4 章） 6. つなかりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7. 共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグラン（10 章） 8. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7 章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11 章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8 章） 15. まとめ、試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、 参考文献	（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。		1、ガイドンス 2、ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、おみやげとスーベニア 4、観光みやげの近代 5、「民芸品」をめぐるまなざし 6、観光みやげと真正性 7、観光みやげのギフト性 8、観光みやげの儀礼的倒錯性 9、観光みやげと「ものがたり」 10、旅するマトリョーシカ① 11、旅するマトリョーシカ② 12、おみやげが媒介する文化 13、民芸品としてのアジア雑貨 14、アジア雑貨が創る旅 15、まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆に SNS へアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラースン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なが現状です。そのためこの講義では、国際的な研究成果を日本の社会文脈に導入し、出席者とともに「自撮り（Selfie）」や「絶景」など、トランスナショナルな社会現象を考え、写真と映画を主な題材として「観る」ということを歴史社会学の方法で考察します。 より具体的な講義の目的は、写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、「撮る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探ることで、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることです。		1. ガイダンス：観光写真と写真観光 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：戦後日本の写真産業と家族写真 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：トランスナショナル・イメージとツーリズム（天皇のイメージ） 8. 「観る」の政治学①：「動く画」の発明（映画の誕生） 9. 「観る」の政治学②：映画の技法 10. 「観る」の政治学③： ディズニー映画と domestication 11. 「観る」の政治学④：映画の「まなざし」とロードムービー 12. 「観る」とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 「観る」とツーリズム②：「自撮り」を考える 14. 「観る」とツーリズム③： SNS と「観る」ことの変容 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテル・旅館ビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション＋ディスカッション」では、各産業への提案を各自パワーポイントを使って行う。		１．オリエンテーション ２．海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 ３．旅行産業の現状と課題① ４．旅行産業の現状と課題② ５．宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① ６．宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② ７．リゾートホテル・ビジネス ８．ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） ９．航空産業の最近の動向① １０．航空産業の最近の動向② １１．プレゼンテーション① １２．プレゼンテーション② １３．プレゼンテーション③ １４．プレゼンテーション④ １５．講義全体の“まとめ”	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％		

13 年度以降 09～12 年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」のシンボルになり、あるいは「観光くにつくり（観光立国）」の理念にもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域アイデンティティの創造などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。		1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」と基地の島 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の観光と真正性 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。 オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。		1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 貧困の商品化—スラム・ツーリズムの事例 5. 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 6. 環境主義の商品化—エコリゾート 7. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 8. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 9. 先住民とアート—北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム—アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民 1 12. エコツーリズムと先住民 2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として 15. まとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

外国語学部共通科目シラバス

09 年度以降	総合講座「自由とは何か」	担当者	阿部 明日香 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
近代に生きる私たちは、「自由な個人」なのでしょうか。ひとりひとりが自分の意思に基づいて考え行動しているのか、それとも、おかれた環境や文化に依存し、その規範を内面化することで自己決定をさせられているのでしょうか。あるいはもっと直接的に権力や制度などによって規制あるいは監視され、個人の自由が制限される場合もあります。本講座では、自由と自由を規制するもの（自己規制を含む）のせめぎ合いについて、時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。		1. 4/13 イントロダクション 2. 4/20 憲法（学）における「自由」の意味について（右崎正博） 3. 4/27学部主催講演会に振替 4. 5/11 自由と紛争：人間の安全保障における自由を考える（石川幸子） 5. 5/18 北朝鮮における「不自由」と「自由」（金子芳樹） 6. 5/25 環境分野から見た自由（岡村りら） 7. 6/1 経済的自由と政治的自由の相克—なぜドイツでは「自由主義」が弱いのか（大重光太郎） 8. 6/8 自由とメディアの関係史（山口誠） 9. 6/15 ドレフュス事件とゾラ：『私は告発する』（福田美雪） 10. 6/22 自由、それを失う可能性（中島万紀子） 11. 6/29 アメリカを百万分の一インチ変えた詩、アレン・ギンズバークの「吠える」("Howl")にみる解放のヴィジョン（原成吉） 12. 7/6 帰属と自由（上野直子） 13. 7/13 「自由とは何か」を再考する—ルソーとラカンの場合（若森榮樹） 14. 7/20 フランスのテロ事件をめぐって（仮）（西谷修） 15. まとめ	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。		
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。		
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。		

09 年度以降	総合講座「神話はいかにしてつくられるか」	担当者	廣田 愛理 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
神話とは一般にはまず「特定の民族・共同体に関わる世界の起源とその意味を説明する物語」を指しますが、20 世紀以降その用法は拡大し「現代社会の特定の集団において普遍と信じられている物語」を表す言葉としても用いられています。また「日本の安全神話」といったように、根拠なく事実だと思われる事象を指す用法も一般化してきました。そこで本講座では「特定の集団を広く支配し、考え方や行動を規定する原理となり得るもの」として、神話について時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。		1. 9/28 イントロダクション 2. 10/5 ヒーローのつくりかた—イタリア統一運動における絵画・挿絵・テキストの戦略— (尾崎有紀子) 3. 10/12 レーニ・リーフェンシュタール—美と神話と政治のはざま— (山本淳) 4. 10/19 東ドイツの国民と国家の「神話」—自己解放と抵抗 (伊豆田俊輔) 5. 10/26 アフリカをめぐる神話と国際情勢 (佐野康子) 6. 11/2 コロニアリズムという神話 (須永和博) 7. 11/9 「女らしさの神話」のいま (片山亜紀) 8. 11/16 男性モードの神話 (青山愛香) 9. 11/30 「常識」を疑う (川村肇) 10. 12/7 日常生活における神話 (平田周) 11. 12/14 The Universal Story: Themes and Motifs in Myths & Folktales (本橋エレン) 12. 12/21 メディアパラノイア 共振する暗殺者たち (工藤達也) 13. 1/11 儀式殺人告発の神話 (佐藤唯行) 14. 1/18 まとめ 1 15. まとめ 2	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。		
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。		
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。		

09 年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋音楽史（１） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。 「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金Ⅱ）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。		1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. 古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌 4. ヨーロッパの中世の音楽 5. ルネサンス音楽（１） フランドルを中心に 6. ルネサンス音楽（２） イギリス・スペインを中心に 7. ルネサンス音楽（３） イタリアを中心に 8. バロック音楽（１） イタリアを中心に 9. バロック音楽（２） フランスを中心に 10. バロック音楽（３） リュリとラモーを中心に 11. バロック音楽（４） イギリスを中心に 12. バロック音楽（５） ヴィヴァルディとペルゴレージ 13. バロック音楽（６） ドイツを中心に 14. 授業内試験 15. まとめ	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09 年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
西洋音楽史（2） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を前提として話しますので、なるべく春学期から受講してください。 「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがあります。予め了解しておいて下さい。		1. 古典派の音楽（1） ハイドン 2. 古典派の音楽（2） モーツァルト 3. 古典派の音楽（3） ベートーヴェン 4. 19 世紀の音楽（1） ヴェーバー、シューベルト、シューマン 5. 19 世紀の音楽（2） ヴィルトゥオーソの時代 6. 19 世紀の音楽（3） フランスを中心に 7. 19 世紀の音楽（4） ロシアを中心に 8. 19 世紀の音楽（5） 北欧と東欧を中心に 9. 19 世紀の音楽（6） スペインを中心に 10. 19～20 世紀の音楽（1） チェコ、ロシアを中心に 11. 19～20 世紀の音楽（2） フランスを中心に 12. 19～20 世紀の音楽（3） イタリアを中心に 13. 19～20 世紀の音楽（4） イギリス、アメリカを中心に 14. まとめ 15. 授業内試験	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、受講者数や学習状況によって変更することがある		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、受講者数や学習状況によって変更することがある		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【初回授業は 5 月 12 日です。学期中に補講を行います】 この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理 Ia では、「言語情報とは何か?」、「コーパス（＝言語データ）とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。		1. 【ガイダンス】第 1 章「コーパス言語学への招待」 2. 第 2 章「コーパスとは何か」 3. 第 3 章「さまざまなコーパス」 4. 第 5 章「コーパス検索の技術」 第 6 章「コーパス頻度の処理」 5. 第 7 章「コーパスと語彙」（1） 6. 第 7 章「コーパスと語彙」（2） 7. 第 8 章「コーパスと語法」（1） 8. 第 8 章「コーパスと語法」（2） 9. 第 9 章「コーパスと文法」（1） 10. 第 9 章「コーパスと文法」（2） 11. プレゼンテーション準備（1）：RQ を検討 12. プレゼンテーション準備（2）：データ分析 13. プレゼンテーション準備（3）：資料作成 14. 発表（1） 15. 発表（2）	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

09 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、<u>英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容</u>といえます。 授業では、学習者コーパスを構築し、分析する演習が中心になります。言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、PC 作業に慣れていることが望ましいです。		1. 【ガイダンス】学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集（1） 5. 学習者データの収集（2） 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備（1）：データ分析 13. プレゼンテーション準備（2）：資料作成 14. 発表（1） 15. 発表（2）	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、「HTML初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1. ガイダンスとイントロダクション 2. HTML と FTP の復習（１） 3. HTML と FTP の復習（２） 4. インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript（１） 7. JavaScript（２） 8. JavaScript（３） 9. JavaScript（４） 10. JavaScript（５） 11. CGI の利用 12. 総合課題（１） 13. 総合課題（２） 14. 総合課題（３） 15. 鑑賞会	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。		
評価方法	授業中に作成する課題（60％）と平常点（課題の途中経過等 40％）で総合評価する。		

09 年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約 3. 家計の行動②－効用最大化 4. 家計の行動③－消費者余剰の概念 5. 企業の行動①－生産技術の決定 6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7. 企業の行動③－生産者余剰の概念 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得分配の決定 13. 政府の役割①－規制および補助金政策 14. 政府の役割②－租税政策 15. まとめ	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09 年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 企業投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政政策の有効性 9. 金融政策の有効性 10. 国際収支と為替レートの決定要因 11. 開放マクロ経済下での経済政策 12. 公債発行と財政赤字 13. 経済成長の決定要因 14. 日本の公的債務と経済成長 15. まとめ	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		1.イントロダクション - 「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情勢的影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.期末試験と振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学―適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09 年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4.コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8.信頼社会と安心社会 9.社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10.社会的感情(2)：表情と感情 11.社会的感情(3)：生死を分ける感情 12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13.健康行動と社会心理学(2)：感染予防ための挑戦 14.期末試験と振り返り 15.社会心理学の未来	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学―適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。なお、第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス フランス語学科

2016年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	